WAVIO AV SYSTEM

SE-U55SXII

USB デジタルオーディオプロセッサー

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

ご使用になる前に 2

接続する 11

パソコンの設定 16

再生する 24

録音する 41

その他 56

本機の特長

■24 ビット /96kHz の信号処理対応＆録音 / 再生とも高 SN 比を実現

24 ビット /96kHz 信号処理に対応し、D/A コンバータ、A/D コンバータにそれぞれ専用チップを採用することで音楽再生時の SN 比 115dB（20-kHz AES17 LPF、A-weighted）を実現。A/D コンバータには SN 比 114dB の高性能なサウンドチップを採用し再生音質はもちろん録音時のクオリティも大幅に向上させています。

■ジッター値を大幅に低減する内部水晶クロック同期

従来の USB オーディオ機器ではパソコンのクロックに同期させていたため信号伝達の時間的ズレで生じるノイズ、ジッター（波形の揺らぎ）値が通常のオーディオ機器の数十倍になっていました。SE-U55SXⅡでは水晶クロックを本体内部に持つことでこのジッター値を大幅に低減、通常のオーディオ機器に匹敵する高品位サウンドを実現しています。

■多彩なオーディオ機器を接続できる豊富な入出力端子とデジタル IN オートセレクターの搭載

アナログ入出力はもちろんのこと、デジタル入力 3 系統、デジタル出力 2 系統を装備しました。ますます増えるデジタル機器も手軽に接続、多彩なソースをパソコンに録音したり※、パソコンで編集した音楽をオーディオ機器に録音することも簡単です。また 3 系統のデジタル入力端子から信号を検知して自動的に入力を切り替えるデジタル IN オートセレクターを採用しています。

※ SCMS（シリアルコピーマネージメントシステム）対応により著作権保護されたデータの録音はできません。

※ SE-U55SXⅡのデジタル出力からの信号を録音することはできません。

■オーディオセレクターとしても使用できるセルフパワー対応

AC アダプターからの完全セルフパワー給電でノートパソコンでも電源供給の心配をせずに使用できます。さらにはパソコンが起動していなくても他のオーディオ機器と組み合わせてオーディオセレクターとして動作させることが可能です。

■デジタル音楽データの音質を飛躍的に向上する VLSC®

独自開発の VLSC® は、一般的なロー・パス・フィルターでは完全に除去することができなかったパルス性ノイズを全く含まず、滑らかな音楽信号を生成することで、MP3 などの圧縮音源はもちろんデジタル音楽の再生音質が飛躍的に向上しています。

■DigiOnSound6 L.E. for ONKYO を標準バンドル

DigiOnSound6 L.E. for ONKYO は、MP3 をはじめ、WAVE、WMA9、AAC、Ogg Vorbis など様々なファイル形式に対応した標準バンドルソフトです。わかりやすい日本語のユーザインターフェースで、音楽 CD のリッピング、録音、編集作業が手軽におこなえます。
また、レコードやカセットのノイズを除去できる機能など各種エフェクトを簡単に選べるエフェクトランチャー機能を搭載した国産音楽ソフトです。貴重なアナログ音源の保存には最適です。
さらには、編集状態を確認しながら作業できる非破壊編集にも対応しています。

- WAVIO、VLSC の名称、ロゴはオンキヨー株式会社の商標です。
- Windows の正式名称は Microsoft Windows Operating System です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標、または登録商標です。
- DigiOn、DigiOnSound は、株式会社デジオンの登録商標です。
- Intel、インテル、Core、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標、または登録商標です。
- その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

目次

ご使用になる前に

本機の特長 2
目次 4
安全上のご注意 5
箱を開けたら、まず 8
各部の名称と働き 9
前面 9
後面 10

接続する

パソコンの接続を始める前に 11
動作環境 11
本機をお使いいただくにあたって 12
接続する 13
USB パソコンオーディオシステム接続例 13
パソコンへ本機を接続する 15

パソコンの設定

パソコンの設定 16
ドライバのインストールを確認する 16
オーディオデバイスを確認する 17
音楽 CD を再生するための設定をする 20
ボリュームコントロールの設定 21

いろいろな再生

入力切り替えスイッチ（INPUT）の使い方 24
接続している機器の音声を楽しむ 25
デジタル入力に接続されている機器の音声を楽しむ 25
アナログ入力に接続されている機器の音声を楽しむ 25
パソコンに保存した音楽ファイルを聴く 26
付属のアプリケーションソフトをパソコンにインストールする 27
DigiOnSound6 L.E. の特長 27
ソフトウェア使用許諾契約について 28
DigiOnSound6 L.E. をインストールする 29
QuickTime をインストールする 33
DigiOnSound6 L.E. の使い方 36
DigiOnSound6 L.E. を起動する 36
DigiOnSound6 L.E. を終了する 38
DigiOnSound6 L.E. のヘルプを開く 39
DigiOnSound6 L.E. をアンインストール（削除）するには 40

録音する

録音のしかた 41
DigiOnSound6 L.E. で 24 ビット/96kHz の録音をおこなう場合の設定について 41
マイクやライン入力のアナログ音声をパソコンに録音する 43
レコードやテープのノイズを取り去る 47
レコードやテープ、IC レコーダーやマイクから録音したノイズを分析し、除去する 48
「保存」と「書き出し」について 50
CD や MD のデジタル音声をパソコンに録音する 51
録音についてのご注意 54

その他

コピーガードシステムについて 56
故障かな？と思ったら 57
ご相談窓口・修理窓口のご案内 61
修理について 62
主な仕様 63

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告 誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

⚠注意 誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた
△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⃠ 記号は「〜してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに AC アダプターを抜く

AC アダプターをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに AC アダプターをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面から 2cm 以上、背面から 5cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

⚠警告

AC アダプターに関するご注意

■ AC アダプターのコードを傷つけない

禁止

- AC アダプターのコードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

AC アダプターのコードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ AC アダプターのプラグは定期的に掃除する

必ずする

AC アダプターのプラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

■ AC アダプターに布や布団をかぶせない

禁止

熱がこもり火災の原因となります。

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、AC アダプターのプラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

AC アダプターに関するご注意

■ 表示された電源電圧で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■ AC アダプターのコードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ AC アダプターのプラグを抜くときは、AC アダプターのコードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■ 長期間使用しないときは AC アダプターをコンセントから抜く

AC アダプターをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

⚠注意

■ AC アダプターのプラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で AC アダプターを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は AC アダプターを抜く

AC アダプターをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため AC アダプターをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■ 長時間大きな音でヘッドホンを使用しない

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は AC アダプターや接続コードをはずす

AC アダプターをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

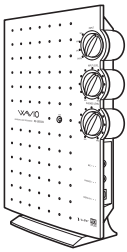
♪ 音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。
特に静かな夜間には、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

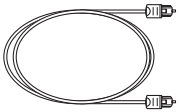
箱を開けたら、まず

ご使用の前に箱の中身をお確かめください。[　] 内の数字は数量を表しています。

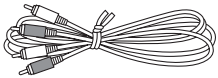
・SE-U55SXⅡ（本体）　[1]



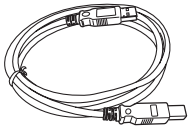
・光デジタルケーブル［1］



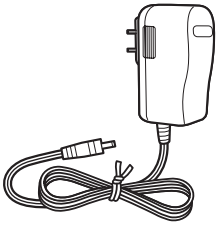
・オーディオ用ピンコード［1］



・USB ケーブル［1］
パソコンと接続するケーブルです。



・AC アダプター［1］



・CD-ROM［1］

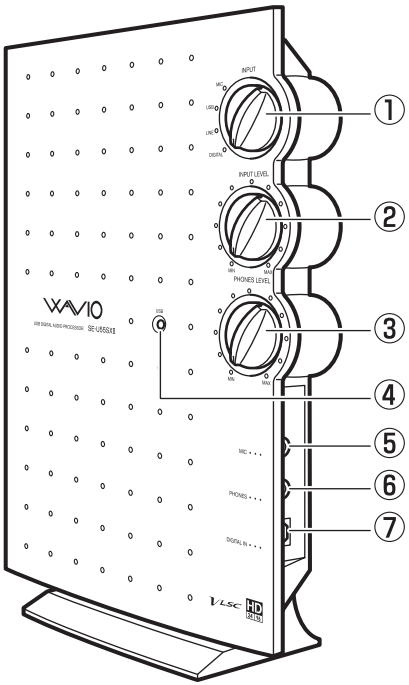
※ CD-ROM を開封する前に、必ず「ソフトウェア使用許諾契約について」のページをお読みください。

・取扱説明書（本書）［1］
・保証書［1］

※ カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法や仕様は同じです。

各部の名称と働き

前面



① **入力切り替えスイッチ（INPUT）**

USB：USB 接続しているパソコンの音声を再生するときにこの位置にします。

DIGITAL（デジタル）：DIGITAL IN 端子に接続した機器の音声を再生するときや録音するときにこの位置にします。

LINE（ライン）：ANALOG LINE IN に接続した機器の音声を再生するときや録音するときにこの位置にします。

MIC（マイク）：MIC 端子にマイクを接続してパソコンに音声を録音するときにこの位置にします。

② **入力レベル調整つまみ（INPUT LEVEL）**

録音するときに入力レベルを設定します。

③ **ヘッドホンレベル調整つまみ（PHONES LEVEL）**

ヘッドホンを接続しているときにヘッドホンの音量を調整します。

④ **USB インジケーター（USB）**

消灯
本機の電源が入っていない状態です。

オレンジ色に点灯
本機の電源は入っていますが、USB 接続がされていない状態、または USB 接続しているパソコンの電源が入っていない状態です。本機単独での使用は可能です。

緑色に点灯
本機および USB 接続しているパソコンの両方の電源が入っている状態です。

緑色とオレンジ色が交互に点灯
本機および USB 接続しているパソコンの両方の電源は入っていますが、現在の入力切り替えスイッチ（INPUT）の位置では使えない状態です。一度、電源スイッチをオフにするか、USB ケーブルをはずしてください。

ご注意
電源スイッチをオフにしたときは、2 秒ほど待ってから電源スイッチをオンしてください。

⑤ **マイク入力端子（MIC）**

モノラルミニプラグのマイクを接続します。

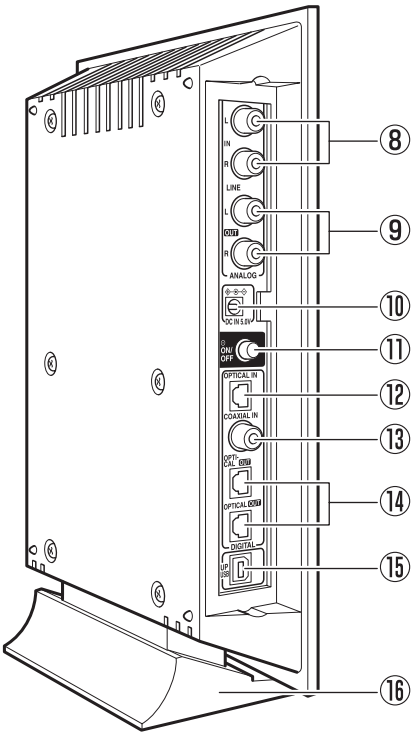
⑥ **ヘッドホン端子（PHONES）**

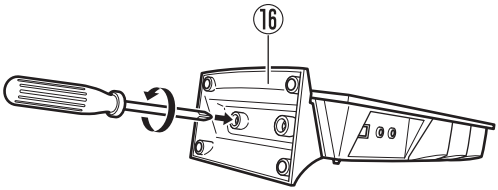
ステレオミニプラグのヘッドホンを接続します。

⑦ **デジタル光入力端子（DIGITAL IN）**

ポータブル CD プレーヤーなどの光デジタル出力を接続します。

後面





⑧ ライン入力端子（ANALOG LINE IN L/R）

カセットデッキやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーなど、オーディオ機器のアナログ出力を接続します。

⑨ ライン出力端子（ANALOG LINE OUT L/R）

アンプ内蔵スピーカー等を接続します。

⑩ DC IN 端子（DC IN 5.0V）

付属の AC アダプターを接続します。

⑪ 電源スイッチ（ON ▁ /OFF ■）

本機の電源を入 / 切します。

⑫ デジタル光入力端子（DIGITAL OPTICAL IN）

CD プレーヤーなどの光デジタル出力を接続します。

⑬ デジタル同軸入力端子（DIGITAL COAXIAL IN）

CD プレーヤーなどの同軸デジタル出力を接続します。

⑭ デジタル光出力端子（DIGITAL OPTICAL OUT）

AV アンプまたはデジタル入力端子付アンプ内蔵スピーカーなどの光デジタル入力を接続します。

⑮ USB アップポート（UP USB）

パソコンの USB 端子と接続します。

⑯ スタンド

本機を縦置きするときに使います。本機を横置きするときは、底部のねじ（2 箇所）をはずしてスタンドを取り外してください。

パソコンの接続を始める前に

動作環境

対応機種
USB 規格 Rev.1.1 に準拠した USB ポート標準装備の PC/AT 互換機（Intel 製 USB ホストコントローラー推奨）
本機は 24 ビット /96kHz に対応しているため、USB バスの帯域を広く使用します。USB ケーブルは直接パソコンの USB ポートに接続してください。

対応 OS
Windows® 8、Windows® 7、Windows Vista® 32bit SP2 以降、Windows® XP 32bit SP3 以降の日本語版
* システム管理者権限（Administrator）でのみ使用可能です。

推奨 CPU
Intel® Core ™ i シリーズ　1.2GHz 以上
Intel® Core ™ 2 Duo　1.5GHz 以上
Intel® Pentium® 4　2.5GHz 以上

ハードディスク必要容量
付属のソフトウェアのインストール時 400MB 以上
※ 音声のデータサイズが大きいため、作業領域と保存用に数百 MB の空き容量のあるハードディスクをお勧めします。
※ お使いのハードディスクのフォーマット形式や確保容量などにより、必要容量は多少異なります。

推奨メモリ
Windows® 8/Windows® 7/Windows® Vista/Windows® XP（32bit）　1GB 以上
Windows® 8/Windows® 7（64bit）　2GB 以上

画面
1024 × 768 ピクセル以上、32 ビット以上

必要周辺機器
CD-ROM ドライブ（または相当品）
※ 付属のソフトウェアをインストールするために必要です。

Windows について
Windows 日本語版が現在の状態で正しく起動できることを確認してください。

必要な動作環境を満たすパソコンであっても、パソコンシリーズ固有の設計仕様やお客様の使用環境の違いにより、本製品の動作が正常に行われない機種があります。

⚠ご注意
正しく安全にお使いいただくために
ご使用の前に取扱説明書をお読みください。

本製品の制限事項や動作確認情報についての詳細は、弊社ホームページ（http://www.jp.onkyo.com/support/pcaudio/index.htm）にてご確認ください。

パソコンの接続を始める前に

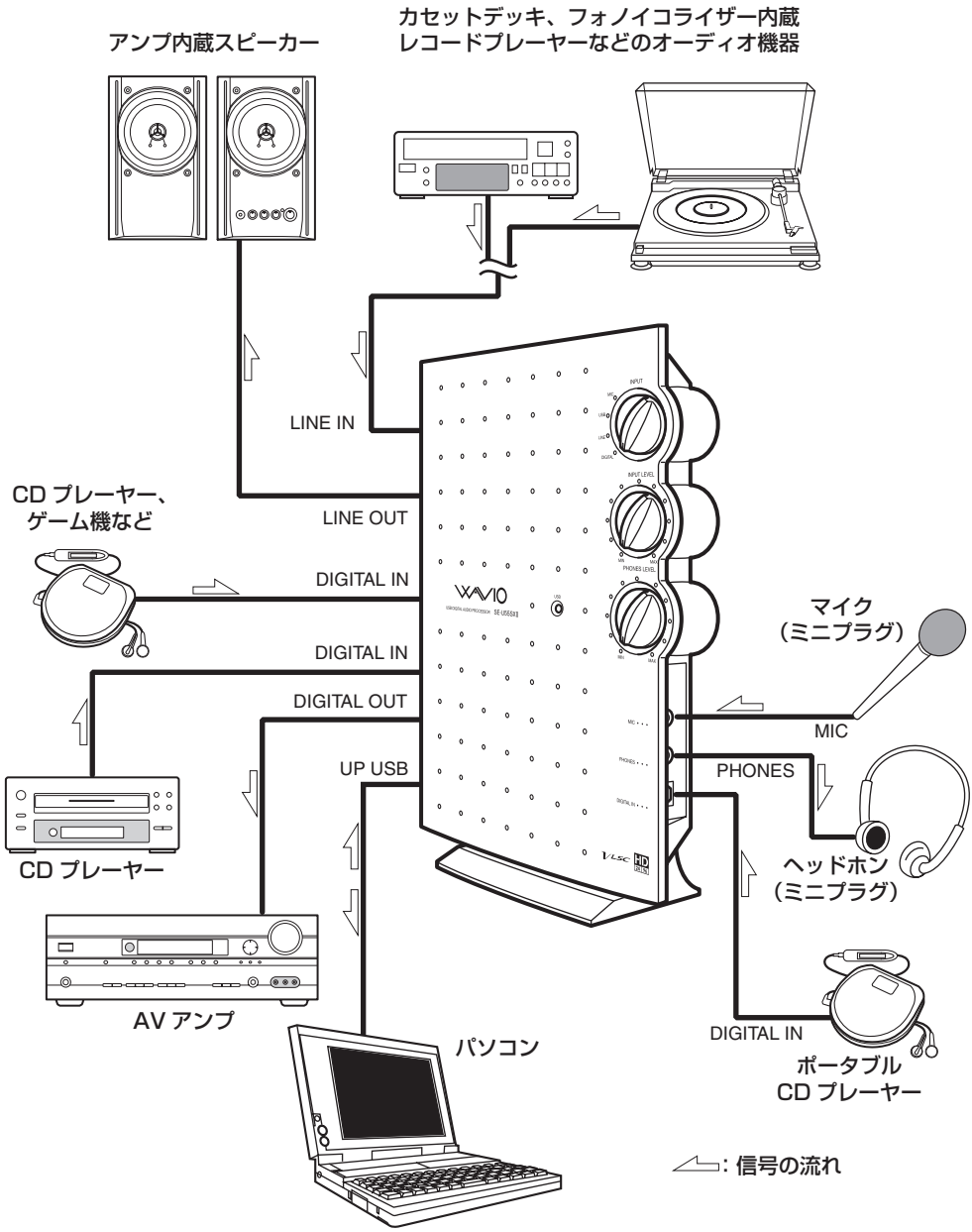
本機をお使いいただくにあたって

本機をお使いいただくにあたり、下記注意事項をお読みいただき、正しくお使いください。

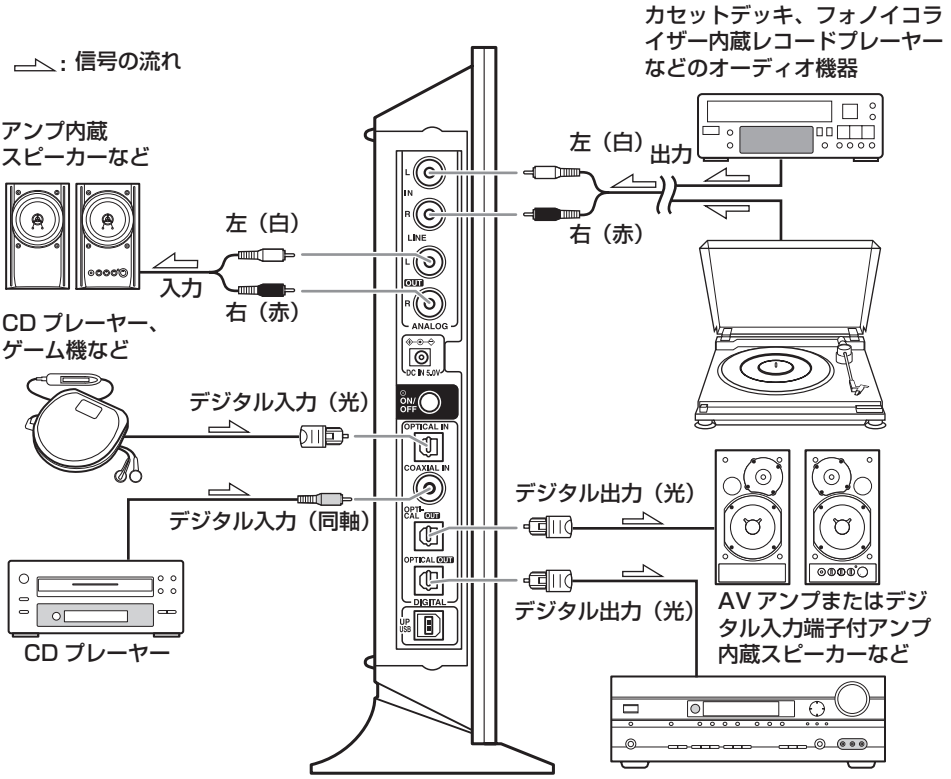
- 本書は、マウスやキーボードの使用方法など、Windows の基本的な操作についてすでにご存知であることを前提に書かれています。
- 本機を運用した結果の影響については一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本機の故障、誤操作、不具合により生じた損害などの純粋経済損失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書の一部または全部を無断で貸し出し、転載することは固くお断りします。

接続する

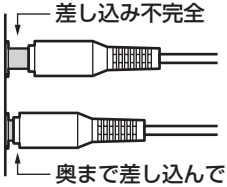
USB パソコンオーディオシステム接続例



接続する



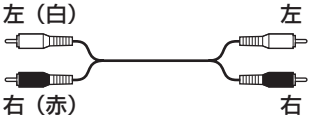
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。



- デジタル端子にはキャップは付いていません。（シャッタータイプですので、フタをそのまま奥へ倒すようにまっすぐに光デジタルケーブルを差し込んでください。ななめに差し込んだり抜いたりすると、フタが破損する

接続図では、使用する接続コードを次のように示します。

オーディオ用ピンコード
（RCA タイプ）



同軸デジタルケーブル

光デジタルケーブル

パソコンへ本機を接続する

1. 付属の AC アダプターを本機に接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込みます。

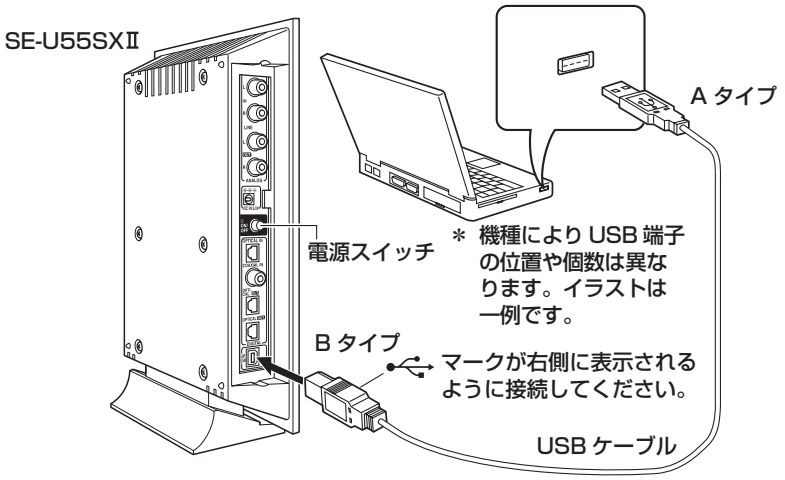
ご注意

付属の AC アダプターは本機専用です。他の機器には絶対に使用しないでください。また、付属の AC アダプター以外のものを本機に使用しないでください。本機の故障や火災の原因になることがあります。

2. 付属の USB ケーブルの A タイプのプラグ（▭）をパソコン本体の USB ポートへ接続します。

ヒント パソコンの USB ポートが 2 個以上ある場合はどのポートに接続しても構いません。

3. B タイプのプラグ(□)を SE-U55SXⅡの USB アップポート(UP USB)へ接続します。
4. 入力切り替えスイッチ（INPUT）を MIC の位置にします。
5. 電源スイッチを ON の位置にします。
6. 入力切り替えスイッチが MIC の時のドライバのインストールが始まります。
   OS の指示に従って操作することで自動的にインストールが完了します。
7. 電源スイッチを OFF の位置にします。
8. 入力切り替えスイッチ（INPUT）を USB の位置にします。
9. 電源スイッチを ON の位置にします。
10. 入力切り替えスイッチが USB/LINE/DIGITAL の時のドライバのインストールが始まります。
    OS の指示に従って操作することで自動的にインストールが完了します。



ご注意

端子の抜き差しをする場合にはスピーカーの音量を絞ってください。

パソコンの設定

Windows 8 については、マウスやキーボードでの操作を前提に記載しています。お使いのパソコンがタブレット機能を持つ場合は、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

ドライバのインストールを確認する

1. システムのプロパティからデバイスマネージャーを開きます。

＜ Windows 8 の場合＞

1. スタート画面→「デスクトップ」をクリックします。
2. プログラムやファイルのアイコンがない所で右クリックして「個人設定」を選択します。
3. 「コントロールパネル ホーム」→「デバイスマネージャー」をクリックします。

＜ Windows 7 の場合＞

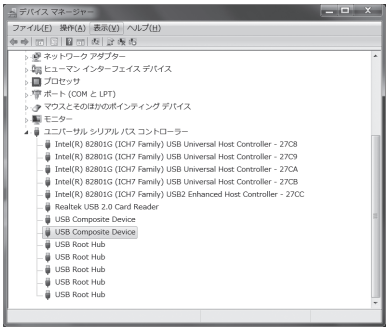
1. 「スタート」→「コントロールパネル」→「システムとセキュリティ」を開きます。
2. 「デバイスマネージャー」をクリックします。

＜ Windows Vista の場合＞

1. 「スタート」→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」を開きます。
2. 「デバイスマネージャ」をクリックします。
3. 「ユーザーアカウント制御」が表示されるので「続行」をクリックします。

＜ Windows XP の場合＞

1. 「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2. 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
3. コントロールパネルの「システム」をクリックします。
4. 「システムのプロパティ」ウィンドウで、「ハードウェア」タブを選択します。
5. 「デバイスマネージャ」をクリックします。



※ 画面は、パソコンの設定や状況によって順番等が異なる場合があります。

2. 以下のデバイス名があることを確認します。

＜ Windows 8/Windows 7 の場合＞

「USB（ユニバーサルシリアルバス）コントローラー」の「▷」をクリックする

- **USB Composite Device**

「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラー」の「▷」をクリックする

- **SE-U55SX Audio**

＜ Windows Vista の場合＞

「USB（ユニバーサルシリアルバス）コントローラ」の「+」をクリックする

- **USB 複合デバイス**

「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ」の「+」をクリックする

- **SE-U55SX Audio**

＜ Windows XP の場合＞

「USB（ユニバーサルシリアルバス）コントローラ」の「+」をクリックする

- USB 複合デバイス

「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ」の「+」をクリックする

- USB オーディオデバイス
(USB Audio Device)

オーディオデバイスを確認する

1. オーディオデバイスを確認するパネルを開きます。

＜ Windows 8 の場合＞

1. スタート画面→「デスクトップ」をクリックします。
2. プログラムやファイルのアイコンがない所で右クリックして「個人設定」を選択します。
3. アドレスバーの「コントロールパネル」をクリックします。
4.「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
5.「オーディオデバイスの管理」をクリックします。

＜ Windows 7 の場合＞

1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
3.「オーディオデバイスの管理」をクリックします。

2.「再生」タブを選択します。

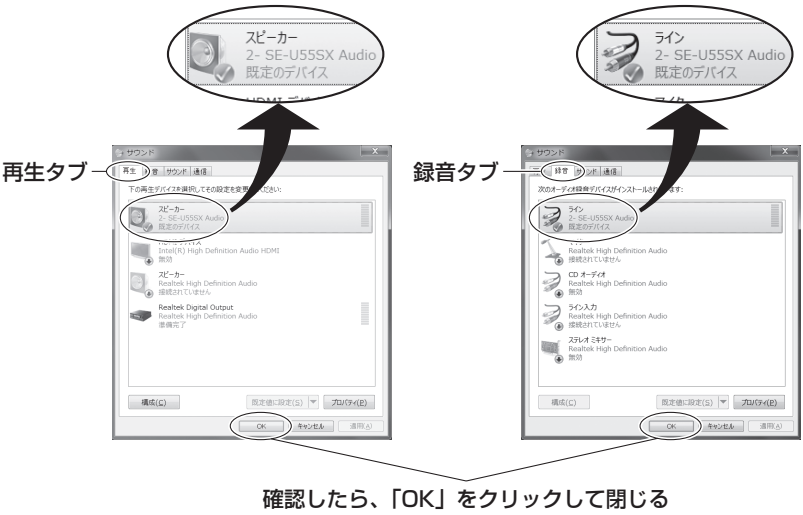
3.「スピーカー SE-U55SX Audio」にチェックがついていることを確認します。異なる場合は選択し「既定値に設定」をクリックしてください。

4.「録音」タブを選択します。

5.「ライン SE-U55SX Audio」にチェックがついていることを確認します。異なる場合は選択し「既定値に設定」をクリックしてください。

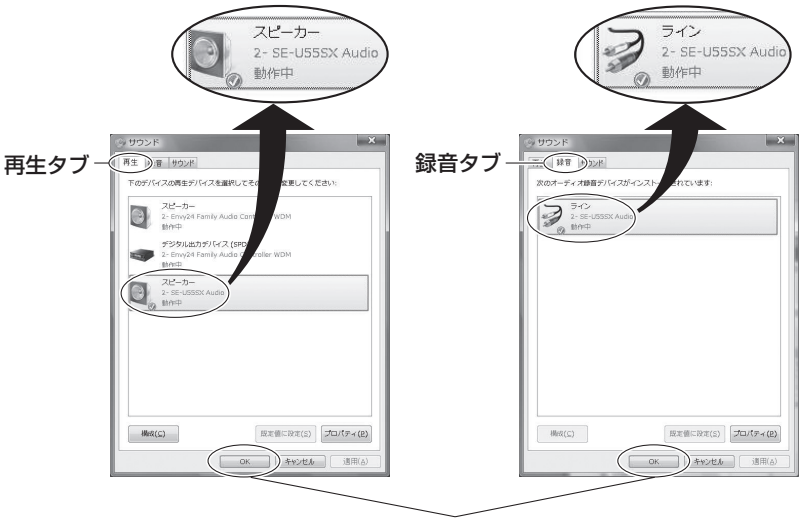
6.「OK」をクリックします。

パソコンの設定



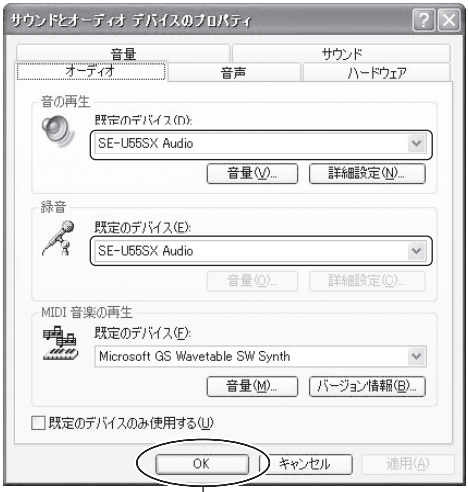
＜ Windows Vista の場合＞

1. オーディオデバイスを確認するパネルを開きます。
   1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
   2.「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
   3.「オーディオデバイスの管理」をクリックします。
2.「再生」タブを選択します。
3.「スピーカー SE-U55SX Audio」にチェックがついていることを確認します。異なる場合は選択し「既定値に設定」をクリックしてください。
4.「録音」タブを選択します。
5.「ライン SE-U55SX Audio」にチェックがついていることを確認します。異なる場合は選択し「既定値に設定」をクリックしてください。
6.「OK」をクリックします。



＜ Windows XP の場合＞

1. **オーディオデバイスを確認するパネルを開きます。**
   1. 「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
   2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
   3. コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
   4. 「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ウィンドウを開きます。
2. **「オーディオ」タブを選択します。**
3. **「音の再生」と、「録音」の「既定のデバイス」が「SE-U55SX Audio」になっていることを確認します。異なる場合は変更してください。**
4. **「OK」をクリックします。**



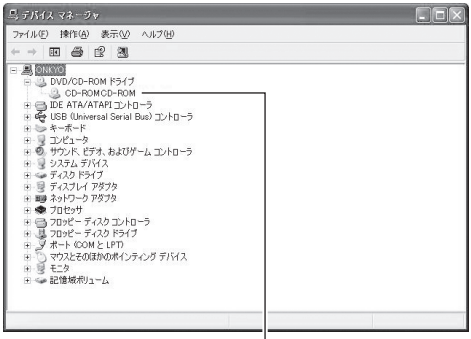
確認したら、「OK」をクリックして閉じる

音楽 CD を再生するための設定をする

この操作は、Windows XP の場合のみ必要です。

1.「マルチメディアのプロパティ」画面（もしくは「DVD/CD-ROM ドライブのプロパティ画面」）を開きます。

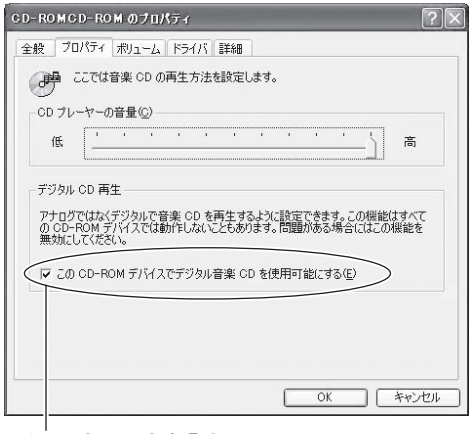
1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
3. コントロールパネルの「システム」をクリックします。
4.「システムのプロパティ」ウィンドウで、「ハードウェア」タブを選択します。
5.「デバイスマネージャ」をクリックします。
6. 音楽 CD を再生する CD-ROM ドライブをダブルクリックし、「プロパティ」タブを選択します。



ダブルクリック

2.「この CD-ROM デバイスで・・・」にチェックマークを入れます。

3.「OK」をクリックします。



チェックマークを入れる

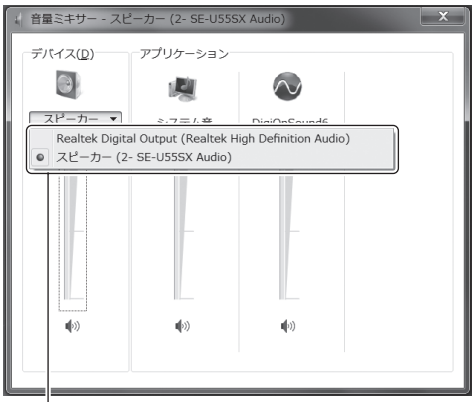
ボリュームコントロールの設定

1. ボリュームコントロールを開きます。

お使いのパソコン環境によっては、ミキサーコントロール等の名前の場合もあります。

＜ Windows 8 の場合＞

1. スタート画面→「デスクトップ」をクリックします。
2. プログラムやファイルのアイコンがない所で右クリックして「個人設定」を選択します。
3. アドレスバーの「コントロールパネル」をクリックします。
4. 「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
5. サウンドの「システム音量の調整」をクリックします。
6. 「デバイス」→「スピーカー (SE-U55SX Audio)」を選択します。



SE-U55SX Audio を選択します

＜ Windows 7 の場合＞

1. 「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2. 「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
3. サウンドの「システム音量の調整」をクリックします。
4. 「デバイス」→「スピーカー（SE-U55SX Audio)」を選択します。

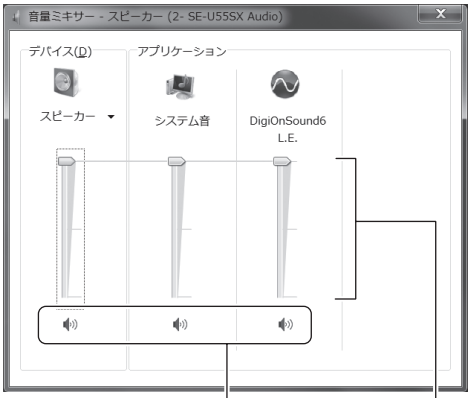
2. 調整します。

①音量スライダー

再生ボリュームをお好みの位置にしてください。

②ミュート

再生の音声を消すときはミュートボタンをクリックしてください。ミュートボタンの表示が → に変わります。もう一度クリックすると表示は → に戻り再び音声が出力されます。

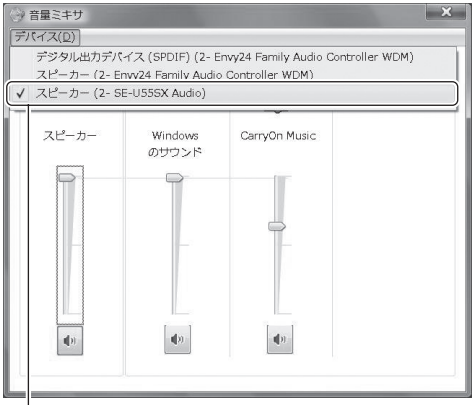


② ミュートボタン ①

パソコンの設定

＜Windows Vista の場合＞

1. 「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2. 「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
3. サウンドの「システム音量の調整」をクリックします。
4. 「デバイス」→「スピーカー（SE-U55SX Audio）」を選択します。



SE-U55SX Audio を選択します

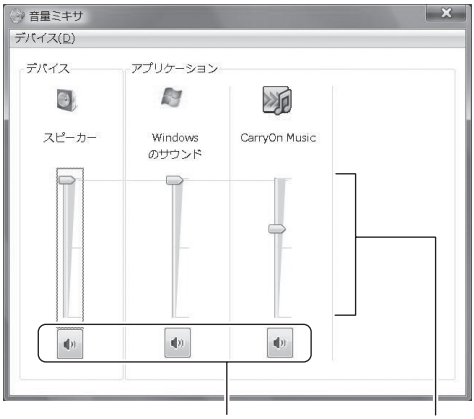
2. 調整します。

①音量スライダー

再生ボリュームをお好みの位置にしてください。

②ミュート

再生の音声を消すときはミュートボタンをクリックしてください。ミュートボタンの表示が → に変わります。もう一度クリックすると表示は → に戻り再び音声が出力されます。



② ミュートボタン　①

＜ Windows XP の場合＞

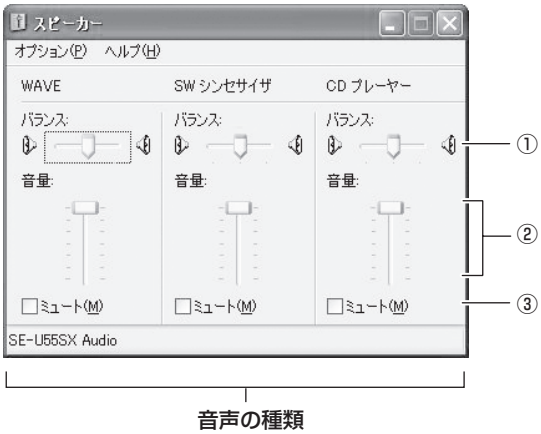
1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
3. コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
4.「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ウィンドウで、「オーディオ」タブを選択します。
5.「音の再生」の「音量」をクリックします。

2. 調整します。

①バランス
左右の出力バランスを変更します。

②音量スライダー
再生ボリュームをお好みの位置にしてください。

③ミュート
再生の音声を消すときはチェックボックスにチェックをつけます。



ヒント

- ボリュームコントロールは、「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」でも開くことができます。

入力切り替えスイッチ（INPUT）の使い方

SE-U55SXⅡでは入力切り替えスイッチ（INPUT）を使って、接続された外部機器の再生・録音やパソコン音声の再生を切り替えます。

■ 各ポジションの名称と機能は次の通りです。

	パソコン音声のモニター	外部機器のモニターと録音	サウンド形式
USB	○	×	16bit,24bit/44.1k,48k,96kHz　出力のみ
LINE	×	○（LINE 入力のみ）	16bit,24bit/44.1k,48k,96kHz　入力のみ
DIGITAL	×	○（DIGITAL 入力のみ）	16bit,24bit/44.1k,48k,96kHz　入力のみ
MIC	○	○（MIC 入力のみ）	16bit/48kHz　入出力

ご注意

MIC 入力音声は DIGITAL OUT 端子からは出力されません。

■ 入力切り替え時の USB インジケータ点滅について

入力切り替えスイッチを操作した後に USB インジケータが点滅する場合があります。この現象は USB/LINE/DIGITAL（24bit/96kHz）のいずれかのポジションから MIC（16bit/48kHz）に切り替えた場合、もしくはその逆の操作を行った場合に起こります。

USB/LINE/DIGITAL　→→→ USB インジケータ点滅　→→→ MIC
USB/LINE/DIGITAL　←←← USB インジケータ点滅　←←← MIC

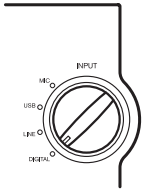
これは入力切り替え後に SE-U55SXⅡのリセットが必要であることを表していますので、USB インジケータが点滅した場合は、SE-U55SXⅡの電源を入れ直すか USB ケーブルの抜き差しをしてください。これにより USB インジケータは点滅しなくなります。

接続している機器の音声を楽しむ

本機は、パソコンが起動していなくても他のオーディオ機器と組み合わせてオーディオセレクターとして動作させることもできます。

デジタル入力に接続されている機器の音声を楽しむ

1. SE-U55SXⅡに再生機器が正しく接続されているか確認します。
2. 入力切り替えスイッチ（INPUT）を「DIGITAL」にします。



本機はデジタルイン・オートセレクター機能を搭載しています。接続された機器の信号を検知して入力を選択します。次の優先順位でデジタル入力が検知されます。

1. 前面パネルの DIGITAL IN
2. 後面パネルの OPTICAL IN
3. 後面パネルの COAXIAL IN

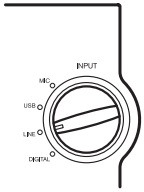
ご注意

接続されている機器が再生してなくても、デジタル信号が出力されていることがあります。この場合、その機器より優先順位の低い端子に接続された機器の音は再生されません。このような場合は、優先順位が高い機器の電源をオフにしてください。

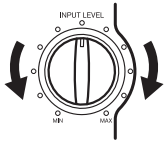
3. 機器の再生を始めます。

アナログ入力に接続されている機器の音声を楽しむ

1. SE-U55SXⅡに再生機器が正しく接続されているか確認します。
2. 入力切り替えスイッチ（INPUT）を「LINE」にします。



3. 機器の再生を始めます。
4. 入力レベル調整つまみ（INPUT LEVEL）で音量を調整します。



パソコンに保存した音楽ファイルを聴く

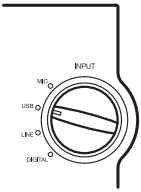
1. **SE-U55SXⅡとパソコンが USB ケーブルで正しく接続されているか確認し、電源スイッチを ON の位置にします。（→ 15 ページ参照）**

2. **入力切り替えスイッチ（INPUT）を「USB」側にします。**

   正しく接続されていると、SE-U55SXⅡの USB インジケーターが緑色に点灯します。

   ご注意

   USB インジケータが点滅するときは、一度電源スイッチをオフにしてください。または、一度 USB ケーブルを抜いてください。



3. **スピーカーで聴く場合は、SE-U55SXⅡにアンプ内蔵スピーカーを接続します。（→ 13 ページ参照）**

   ヘッドホンで聴く場合は、ヘッドホンを SE-U55SXⅡの PHONES 端子に接続します。（→ 13 ページ参照）

   ご注意

   - サウンド機能を実装済みで直接パソコン本体にスピーカーが接続されているような場合、SE-U55SXⅡに入力された音声をそのスピーカーでモニターすることはできません。
   - USB ケーブル以外の接続をするときは、接続する機器の電源を切ってから行ってください。

4. **DigiOnSound や Windows に付属の Windows Media Player などで再生します。**

付属のアプリケーションソフトをパソコンにインストールする

DigiOnSound6 L.E. の特長

■ あらゆるソースをデジタル録音。レコード、カセットもデジタルメディアに

アナログ入力でレコードやカセットテープを録音できます。また、クラックルノイズやヒスノイズ、ハムノイズを強力に除去。古いアナログ音源も美しく記録します。

■ ステレオ対応トラックでステレオベースの編集作業が楽々

1 トラックで 2 チャンネルステレオの編集に対応しました。これにより、ステレオベースでの編集作業が非常に楽に行えます。

■ 非破壊編集でノンストレス

非破壊型エンジンは、編集の際にはデータの書き換えを行わないため、編集の結果を瞬時に確認することができます。実際のデータの書き換えは、編集終了後、ファイルに保存する際に同時に行われるため、ほとんどストレスを感じることなく編集作業を行うことができます。

■ リアルタイムにプレビューできる、充実したエフェクト・フィルター

■ 充実したエフェクトランチャー

充実したエフェクト・フィルター機能をアイコン化されたエフェクトランチャーから呼び出すことができます。

■ MP3、WAVE、WMA 9、AAC、Ogg Vorbis など様々なファイル形式に対応

■ オートメーション機能搭載。ボリューム・パンの動きを記録・再編集

ボリューム・パンの動きを記録、再現することができます。この機能を活用することで、同じ効果をさまざまな場所で再現させたい場合などに高い作業効率を実現します。

※ 動作環境については、11 ページをご覧ください。

DigiOnSound6 L.E. 使用上のご注意

デジタルカメラなどから映像データを直接読み込むことはできません。ビデオソフトなどで読み込み可能なファイル形式に変換してから読み込んでください。ビデオトラックの編集を行うことはできません。

付属のアプリケーションソフトをパソコンにインストールする

ソフトウェア使用許諾契約について

本ソフトウェアをセットアップ（インストール）する前に必ずお読みください。
本ソフトウェアをセットアップ（インストール）すると、本契約の内容を承諾したことになります。
本契約の内容に同意できない場合は、本ソフトウェアのセットアップ（インストール）を行わないでください。

使用許諾契約書

本使用許諾契約書（以下、「本契約書」）は、株式会社デジオン（以下、「弊社」）が提供するソフトウェアに関する使用条件を定めるものです。

第 1 条（定義）

1. 「本ソフトウェア」とは、本契約書とともに提供されるソフトウェア（製品名「DigiOnSound6 L.E.」ライセンス数 1）を指します。また、音素材、ビデオ素材、静止画素材、チュートリアルファイル、ヘルプファイルなどの使用方法を説明したデータなどがソフトウェアに付属し提供される場合は、これらのデジタル情報の一部または全部も含めます。なお、本ソフトウェアに含まれる第三者の著作権に関しても、本契約書が適用されます。
2. 「関連資料」とは、本契約書とともにマニュアルなどの印刷された資料が提供される場合、これを指します。
3. 「お客様」とは、本契約書とともに提供された本ソフトウェアを含む製品を購入し本契約書に同意いただいた個人または法人を指します。

第 2 条（使用条件）

1. お客様は、本ソフトウェアを 1 台のコンピュータにセットアップ（インストール）してご利用いただけます。
2. お客様のうち特定のただ一人が使用するコンピュータが複数ある場合には、本ソフトウェアを同時に使用しないという条件の下、特定の個人ただ一人が使用するコンピュータに限り複数セットアップすることができます。
3. 本契約書は、本ソフトウェアの不具合修正などの目的で改訂したソフトウェアに対しても適用されるものとします。ただし、改訂されたソフトウェアと改訂前のソフトウェアは同一のコンピュータにセットアップされている場合に限ります。

第 3 条（制限）

お客様は、下記の項目を行うことはできません。

1. 本契約書に定めのない、複数コンピュータへのセットアップ（インストール）または複製（コピー）
2. 関連資料の複製（コピー）
3. 本ソフトウェアに含まれるプログラムの改変またはカスタマイズ、リバースエンジニアリング
4. 本ソフトウェアの第三者への再配布、再使用許諾
5. 本ソフトウェア（複製物を含む）の貸与（レンタル）、疑似レンタル、中古品としての販売、譲渡
6. 本ソフトウェアをネットワークコンピュータやサーバーから第三者が複製またはダウンロードできる状態にしておくこと
7. 本ソフトウェアを地上波、衛星、ケーブルまたはその他の媒体を利用した放送、インターネット放送、イントラネットなどネットワークを利用した放送、ペイオーディオ、オーディオ・オン・デマンドのアプリケーションによる放送などに利用すること

上記各号の規定は、本ソフトウェアを改訂した製品をご購入した場合にも継続して適用されます。

第 4 条（保証範囲）

1. 弊社は、本ソフトウェアまたは関連製品に物理的な瑕疵がある場合、お客様がご購入後 30 日間に限り、弊社の判断に基づき交換いたします。ただし、地震、火災などの天災もしくは戦争による破損またはお客様のご購入後の故意、過失、誤った使用によって生じた破損についてはこの限りではありません。
2. 弊社は、本ソフトウェアの機能がお客様の使用目的と適合することを保証するものではありません。弊社は、本製品の物理的瑕疵について保証するものであり、本ソフトウェアまたは関連資料の使用または使用不能から生ずる直接的または間接的被害については一切責任を負いません。
3. 弊社は、本ソフトウェアを使ってお客様が行ったいかなる行為についても、その責任を負いません。

第 5 条（期間）

1. 本契約は、本契約が成立した時点、すなわち本ソフトウェアをセットアップ（インストール）した時点に始まり、お客様が本ソフトウェアの使用を停止するまで有効とします。お客様は、本ソフトウェアの使用を停止した時点で、本ソフトウェアおよび関連資料の一切を破棄するものとします。
2. お客様が本契約に違反した場合は、本契約を解除してお客様の本ソフトウェアの使用を停止させることができます。弊社が、本ソフトウェアの停止を通知した場合には、お客様は速やかに本ソフトウェアおよび関連製品の一切をお客様の費用負担で弊社に返却するものとします。

第 6 条（一般条項）

本契約書に関して生じた紛争については、福岡地方裁判所を第一審の専属的管轄裁判所とします。

DigiOnSound6 L.E. をインストールする

付属の CD-ROM に収録されている［DigiOnSound6 L.E. セットアップ］を起動して、インストールを行います。
起動中のアプリケーションをすべて終了させてから、セットアップを開始してください。
［DigiOnSound6 L.E. セットアップ］をする際は、必ず管理者権限で行ってください。

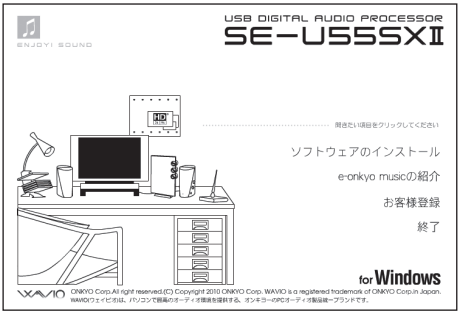
1.［SE-U55SXⅡ CD-ROM］を CD ドライブにセットします。

自動的に画面が表示されます。
画面が表示されない場合は、次の方法で表示させてください。

- **Windows のコントロールパネルを利用する**

＜ Windows 8/Windows 7/Windows Vista の場合＞

1. CD-ROM を CD ドライブにセットすると自動再生ウィンドウが開きますので［menu.exe の実行］をクリックします。



♪ヒント

Windows 8 の場合は、スタート画面→「デスクトップ」をクリックした後に CD-ROM をセットしてください。

2.［DigiOnSound6 L.E. セットアップ］ダイアログボックスが表示されます。

＜ Windows XP の場合＞

1.「コントロールパネル」を表示します。
2.［プログラム（アプリケーション）の追加と削除］ボタンをクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。
3.［プログラムの追加］ボタンをクリックします。
4.［CD またはフロッピー］ボタンをクリックすると、［フロッピーディスクまたは CD-ROM からのインストール］ダイアログボックスが表示されます。
5.［次へ］ボタンをクリックすると、「インストールするプログラムが見つかりませんでした。」と出るので、［参照］をクリックし、「SE-U55SXⅡ」CD-ROM 内、「Sound」フォルダ内の「setup.exe 」を開き、「完了」をクリックします。
6.［DigiOnSound6 L.E. セットアップ］ダイアログボックスが表示されます。

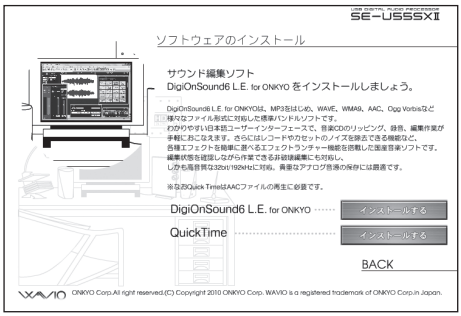
- **SE-U55SXⅡ CD-ROM を開きセットアッププログラムを起動する**

1. Windows のエクスプローラを使って、「SE-U55SX2」を開きます。
2.「menu.exe」アイコンをダブルクリックすると、画面が表示されます。

付属のアプリケーションソフトをパソコンにインストールする

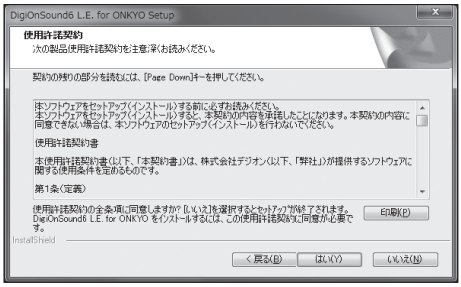
2.「ソフトウェアのインストール」ダイアログボックスでDigiOnSound6 L.E.の［インストールする］をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」の画面が出ますが、「はい」を選択します。



3.「ようこそ」ダイアログボックスが表示されますので、［次へ］ボタンをクリックします。

4.「使用許諾契約」ダイアログボックスが表示されますので、内容をよく読み、契約に同意される場合は、［はい］ボタンをクリックします。



5.「ユーザ情報」ダイアログボックスが表示されますので、「ユーザ名」「会社名」「シリアル番号」を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。

6.「インストール先の選択」ダイアログボックスが表示されます。インストール先を確認し、［次へ］ボタンをクリックします。

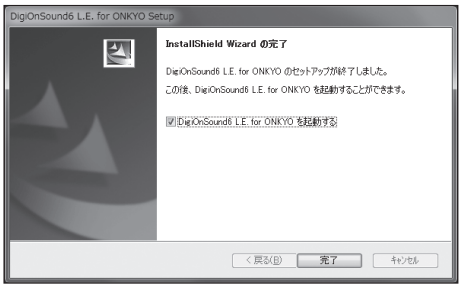
インストールが開始されます。
インストール先を変更する場合は、「参照」ボタンをクリックして、インストールするフォルダを選択してください。

7. 画面には、インストールの進行状況が表示されます。

8.「ショートカットの作成」ダイアログボックスが表示されます。

デスクトップに DigiOnSound6 L.E. ショートカットを作成する場合は、「ショートカットをデスクトップに作成」のチェックボックスをオンにします。
同様に、Windows のクイック起動にショートカットを作成する場合は、「ショートカットをクイック起動に作成」のチェックボックスをオンにします。
ショートカットが必要ない場合は、チェックボックスをオフにします。

9 **インストールが終わると、「InstallShield Wizard の完了」画面が表示されます。**



< Windows 8/Windows 7/Windows Vista の場合>
完了ボタンを押すと DigiOnSound6 L.E. が起動します。
< Windows XP の場合>
DigiOnSound6 L.E. を使用するには、一度パソコンを再起動させる必要があります。
すぐに再起動を行う場合は「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、［完了］ボタンをクリックします。するとパソコンが再起動します。
あとで再起動を行う場合は、「いいえ、あとでコンピュータを再起動します。」を選択し、［完了］ボタンをクリックします。するとインストールを終了します。
お使いの環境によっては、「DigiOnSound6 L.E. for ONKYO を起動する」と表示されます。これを選択し、［完了］ボタンをクリックすると、DigiOnSound6 L.E. が起動します。

10. **［SE-U55SXⅡ CD-ROM］を CD ドライブから取り出します。**

以上でセットアップの完了です。

ご注意

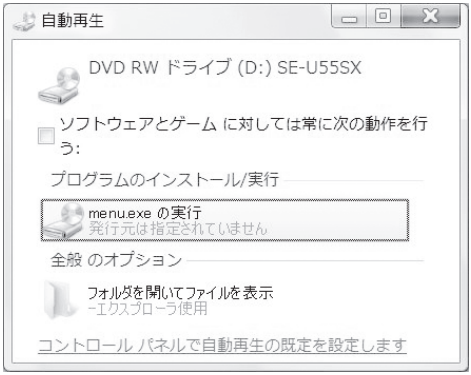
他に起動中のアプリケーションがある場合にコンピュータを再起動しますと、すべてのアプリケーションが強制終了されます。そのため、作業中のファイルなどがある場合は、「いいえ、あとでコンピュータを再起動します。」を選択し、他のアプリケーションを終了してから再起動してください。

QuickTime をインストールする

AAC ファイルの再生には QuickTime をインストールする必要があります。
既に QuickTime がインストールされているパソコンをお使いの方、AAC ファイルを再生しない方はこの項目をお読みになる必要はありません。
付属の CD-ROM に収録されている［ソフトウェアのインストール］を起動して、インストールを行います。
起動中のアプリケーションをすべて終了させてから、セットアップを開始してください。
※以下では Windows 7 を前提に説明します。

1.［SE-U55SXⅡ CD-ROM］を CD ドライブにセットします。

自動再生ウィンドウが表示されたら、「menu.exe の実行」ボタンを押してください。
menu 画面が表示されます。



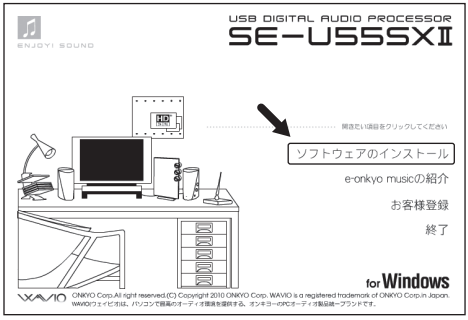
< Windows XP の場合>
自動的に画面が表示されます。
画面が表示されない場合は、次の方法で表示させてください。

- SE-U55SXⅡ CD-ROM を開きセットアッププログラムを起動する。

1. Windows のエクスプローラを使って、「SE-U55SX2」を開きます。
2.「menu.exe」アイコンをダブルクリックすると、menu 画面が表示されます。

2.「ソフトウェアのインストール」をクリックします。

「ソフトウェアのインストール」ダイアログボックスが開きます。

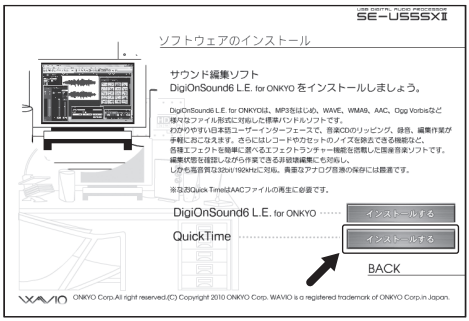


付属のアプリケーションソフトをパソコンにインストールする

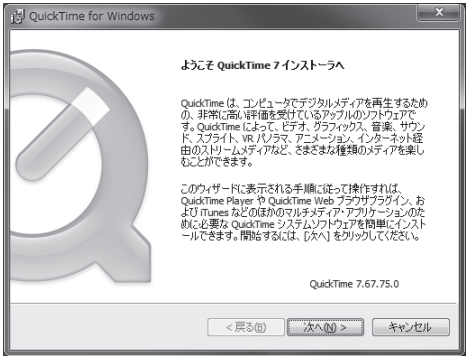
3.「ソフトウェアのインストール」ダイアログボックスで、QuickTime の［インストールする］をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」の画面が出ますが、「はい」を選択します。

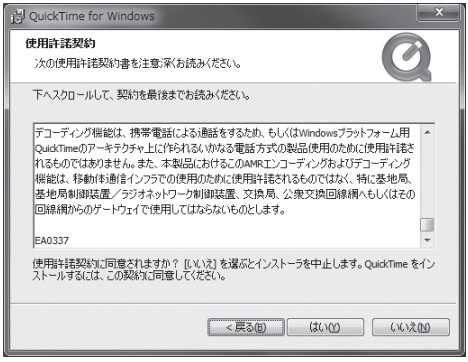
※ Windows XP では「ユーザーアカウント制御」は表示されません。



4.「ようこそ」ダイアログボックスが表示されますので、［次へ］をクリックします。

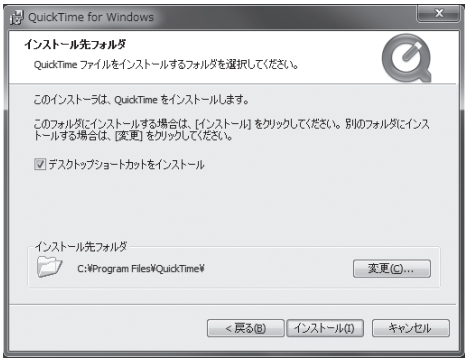

QuickTime for Windows
ようこそ QuickTime 7 インストーラへ
QuickTime は、コンピュータでデジタルメディアを再生するための、非常に高い評価を受けているアップルのソフトウェアです。QuickTime によって、ビデオ、グラフィックス、音楽、サウンド、スプライト、VR パノラマ、アニメーション、インターネット経由のストリームメディアなど、さまざまな種類のメディアを楽しむことができます。
このウィザードに表示される手順に従って操作すれば、QuickTime Player や QuickTime Web ブラウザプラグイン、および iTunes などのほかのマルチメディア・アプリケーションのために必要な QuickTime システムソフトウェアを簡単にインストールできます。開始するには、[次へ] をクリックしてください。
QuickTime 7.67.75.0
< 戻る(B)
次へ(N) >
キャンセル

5.「使用許諾契約」ダイアログボックスが表示されますので、内容をよく読み、契約に同意される場合は、［はい］をクリックします。



6. **「インストール先フォルダ」ダイアログボックスが表示されます。インストール先を確認し、[インストール] をクリックします。**

インストール先を変更する場合は、「 変更 」をクリックして、インストールするフォルダを選択してください。
デスクトップに Quick Time ショートカットを作成する場合は、「デスクトップショートカットをインストール」のチェックボックスをオンにします。



7. **インストールが終わると、「QuickTime インストーラの完了」画面が表示されます。**

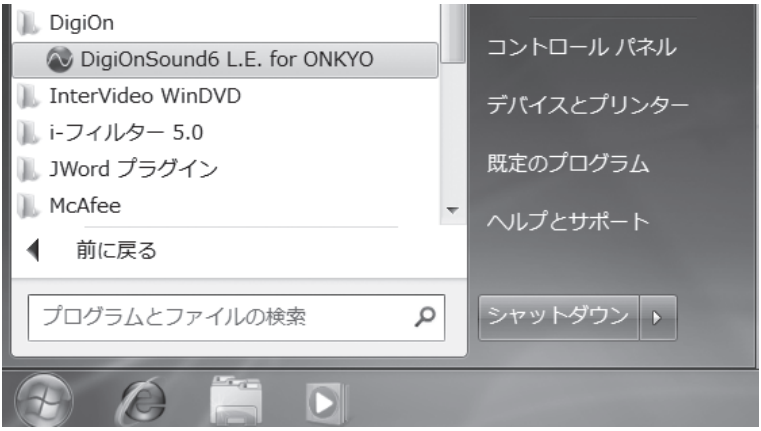
[完了] をクリックします。

インストール完了後 QuickTime Pro の購入を勧める画面が表示されます。
DigiOnSound を使用するうえで QuickTime Pro を購入する必要はありません。

DigiOnSound6 L.E. の使い方

DigiOnSound6 L.E. を起動する

「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」→「DigiOn」→［DigiOnSound6 L.E. for ONKYO］をクリックすると、DigiOnSound6 L.E. が起動します。



♪ヒント

31 ページの「ショートカットの作成」ダイアログボックスでチェックを入れていた場合は、次の方法で起動させることもできます。

- ［クイック起動］のショートカットアイコンをクリックします。
- デスクトップ上のショートカット・アイコンをダブルクリックします。

＜ Windows 8/Windows 7/Windows Vista で再生を行うときは＞

※ Windows XP をお使いの方はこのページはお読みになる必要はありません。

Windows 8/Windows 7/Windows Vista では、SE-U55SXⅡが動作するサンプリング周波数と量子化ビット数を設定できるようになっています。
SE-U55SXⅡが動作するサンプリング周波数と量子化ビット数が、再生するソースのサンプリング周波数と量子化ビット数と合っていない場合、Windows 8/Windows 7/Windows Vista が自動的にサンプリング周波数と量子化ビット数の変換を行います。
SE-U55SXⅡが動作するサンプリング周波数と量子化ビット数を変更したい時は以下の手順にしたがって、Windows 8/Windows 7/Windows Vista の設定を行ってください。

1. **「コントロールパネル」を開きます。**

   <Windows 8 の場合＞
   スタート画面→「デスクトップ」→右クリックして「個人設定」→アドレスバーの「コントロールパネル」を選択します。

   <Windows 7/Windows Vista の場合＞
   「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。

2. **「ハードウェアとサウンド」の中の「オーディオデバイスの管理」をクリックします。**

3. **「オーディオデバイスの管理」ウインドウを開きます。**

4. **「再生」タブを選択します。**

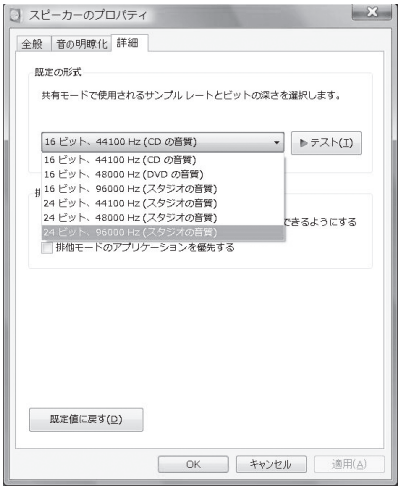
5. **「スピーカー SE-U55SX Audio」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。**

6. **「詳細」タブを選択します。**

7. **「既定の形式」からサンプリング周波数とビット数を選択します。**

   本機の Digital 出力からはここで設定したサンプリング周波数とビット数の信号が出力されます。
   入力切り替えスイッチ（INPUT）が MIC の時は「16 ビット、48000 Hz」のみ選択できます。

8. **「OK」をクリックして終了します。**



DigiOnSound6 L.E. を終了する

「ファイル」メニューの［終了］を選択します。
また、DigiOnSound6 L.E. の右上にある終了ボタン［×］をクリックしても終了できます。

♪ヒント

開いているファイルに変更が加えられている状態で DigiOnSound6 L.E. を終了しようとすると、ファイルを保存するかどうかのダイアログボックスが開きます。

DigiOnSound6 L.E. のヘルプを開く

本書では、SE-U55SXⅡと DigiOnSound6 L.E. を使って録音することについては 42 ページ以降に詳しい使用方法を掲載しておりますが、DigiOnSound6 L.E. には他にも多くの機能があります。

すべての機能を本書で説明できませんが、DigiOnSound6 L.E. ソフトウェアの「ヘルプ」では、すべてのコマンドについて説明をしていますので、そちらをご覧になりながら操作を進めてください。

1.「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」→「DigiOn」→ [DigiOnSound6 L.E.] をクリックすると、DigiOnSound6 L.E. が起動します。

2.「ヘルプ」メニューから「目次」を選びクリックします。

3. DigiOnSound6 L.E. のヘルプ（オンラインマニュアル）が起動します。

お知りになりたい項目をクリックしてください。

DigiOnSound6 L.E. の使い方

DigiOnSound6 L.E. をアンインストール（削除）するには

DigiOnSound6 L.E. を使用しなくなった場合や、インストールしなおしたいときなどは、下記の方法でアンインストールしてください。

1. **DigiOnSound6 L.E. が起動していないことを確かめます。**
   起動しているときは、38 ページの方法で DigiOnSound6 L.E. を終了してください。
2. **「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。**
3. **「プログラムのアンインストール」をクリックします。**
4. **「DigiOnSound6 L.E.」をダブルクリックします。**
5. **確認のメッセージが出ますので、「OK」をクリックします。**
6. **「完了」をクリックします。**

ご注意

- Windows 8 の場合はスタート画面→「デスクトップ」→右クリックして「個人設定」→「コントロールパネル ホーム」→「プログラムと機能」画面にてアンインストールすることができます。
- Windows Vista の場合は「スタート」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」画面にてアンインストールすることができます。

用語解説

MP3（MPEG Audio Layer3）ファイルとは？
音楽ファイルの圧縮フォーマットのひとつ。
Windows の代表的な音楽ファイル形式 WAVE などと比較すると、ファイル容量が 1/10 程度に圧縮され、音質もほとんど劣化しないのが特長といわれています。

WAV ファイルとは？
Windows で標準的な音楽ファイルの形式。WAVE ファイルと同じ。
音声データをサンプリングして、パソコン用のデータとして保存したファイルのことです。

WMA（Windows Media Audio）ファイルとは？
Microsoft 社が開発した音楽ファイルの圧縮フォーマットのひとつ。
音楽 CD に迫る音質と、デジタル著作権を主張できることが特長になっています。

録音のしかた

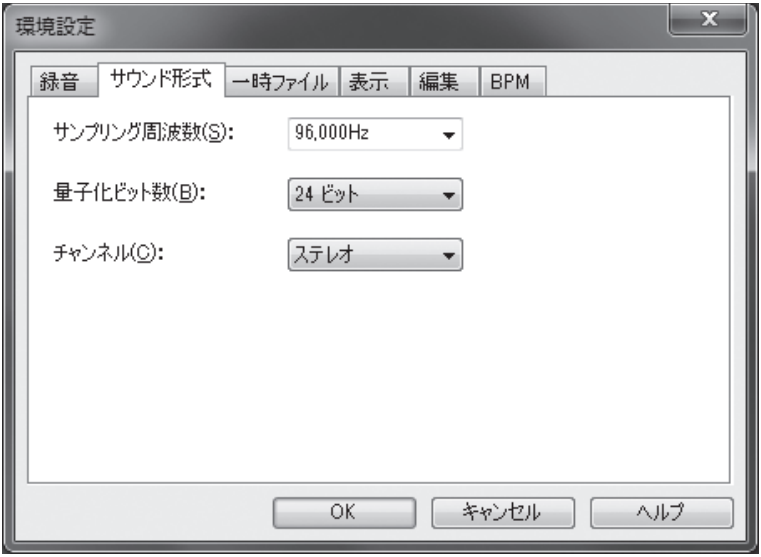
※録音したものは、個人として楽しむ以外には著作権法上、権利者に無断で使用できません。

DigiOnSound6 L.E. で 24 ビット /96kHz の録音をおこなう場合の設定について

DigiOnSound6 L.E. で、24 ビット /96kHz の録音をおこなう場合、以下の手順にて新規ドキュメントのサウンド形式の設定と、出力・入力サウンドデバイスの設定を変更する必要があります。

1.「ファイル」メニューの「環境設定」の「サウンド形式」タブを選択します。

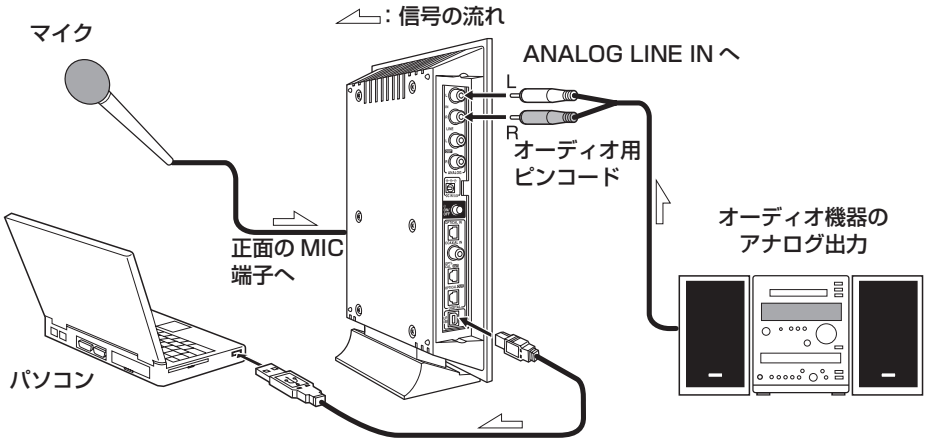
2.「サンプリング周波数」を「96,000Hz」、「量子化ビット数」を「24 ビット」、「チャンネル」を「ステレオ」に設定します。



3.「ファイル」メニューの「サウンドデバイスの設定」を選択します。

4.「出力サウンドデバイス」を 「スピーカー (SE-U55SX Audio)」 に、「入力サウンドデバイス」を「ライン (SE-U55SX Audio)」に設定します。また、「20, 24, 32 ビットデータの再生方法」および「20, 24, 32 ビットデータの録音方法」をそれぞれ 「24 ビット」 に設定し、「拡張 WAVE 形式を使用する」のチェックボックスをそれぞれオンにします。

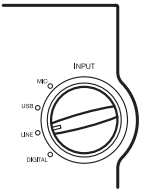
マイクやライン入力のアナログ音声をパソコンに録音する



1. **アナログ再生させる機器を図のように SE-U55SXⅡ 本体に接続します。**

   レコードプレーヤーを接続する場合は、フォノイコライザーを通して接続するか、フォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーをお使いください。

2. **SE-U55SXⅡ 本体の入力切り替えスイッチ（INPUT）を録音するソースに合わせ、「LINE」または「MIC」に切り替えます。**

   USB インジケーターが緑色に点灯しているかご確認ください。

   ご注意

   USB インジケータが点滅するときは、一度電源スイッチをオフにしてください。または、一度 USB ケーブルを抜いてください。

   ♪ヒント

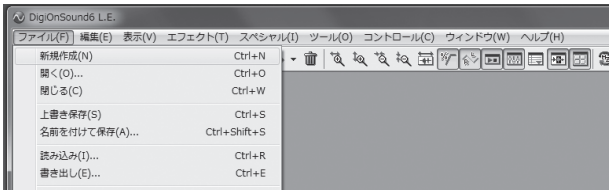
   入力切り替えスイッチ（INPUT）が「MIC」の位置にある場合は、パソコンからの再生と MIC 入力からの録音を同時に行うことができます。

3. **DigiOnSound6 L.E. を起動します。**

   ♪ヒント

   インストール後、最初に DigiOnSound6 L.E. を起動したときには、サンプルファイルが自動的に開きます。二回目以降のソフト起動時には、前回終了時に開いていたファイル、およびウィンドウが起動時に開きます。

4. ［ファイル］メニューから［新規作成］を選びます。録音用の空のファイルが開きます。



5. ［ミキサーコントロール］ウィンドウを使って、録音の設定をします。

［ミキサーコントロールウィンドウ］が開いていない場合は、［表示］メニューから［ミキサーコントロール］の項目にチェックを入れてください。

ステレオ（左右が独立した音声）で録音する場合、チェックします。

モノラル（左右が同一の音声）で録音する場合、チェックします。

♪ヒント

「ステレオ」と「モノラル」は両方同時にオンすることはできません。

［ミキサーコントロール］ウィンドウの［R（レコード）］ボタンをクリックします。

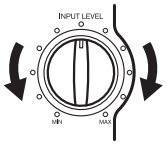
［モニター］チェックボックスをチェックすると、録音レベルをモニターできます。

6. 接続している機器を再生します。

ミキサーコントロールのレベル表示がアップダウンします。

7. SE-U55SXⅡ の入力レベル調整つまみ（INPUT LEVEL）で録音レベルを調整します。

「ミキサーコントロール」の画面を見ながら、録音するサウンドの最大レベルが最適となるようにゆっくりと音量を上げてください。



ご注意

［モニター］チェックボックスをチェックしても［録音レベルモニター］が振れない場合は、DigiOnSound6 L.E. が外部オーディオの信号を正しく受け取っていません。入出力サウンドデバイスが正しく設定されているか確認してください。

8. 録音レベルの調整が終わったら、機器の再生をいったん止めます。

9.［コントローラー］画面を使って録音します。

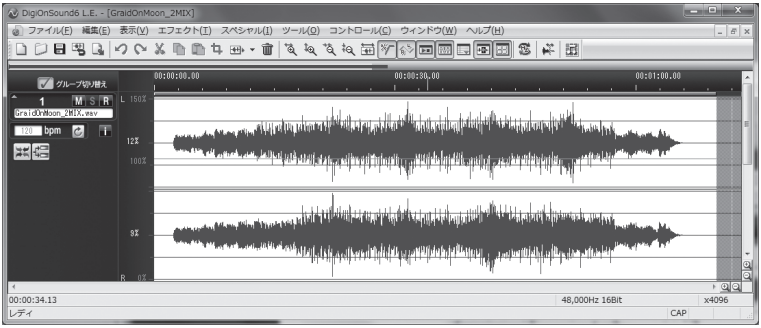
［コントローラー］ウィンドウが開いていない場合は、［表示］メニューから［コントローラー］の項目にチェックを入れてください。

1. ［ ●（録音）］ボタンをクリックすると、録音待機状態となります。
2. 機器の再生をはじめ、録音したいところで［ ⏸（一時停止）］ボタンをクリックすると録音を開始します。

一時停止するには：録音中に［ ⏸（一時停止）］ボタンをクリックします。ボタンが押されたポイントで録音が待機状態となり、［ ⏸（一時停止）］ボタンをクリックすると再び録音を開始します。

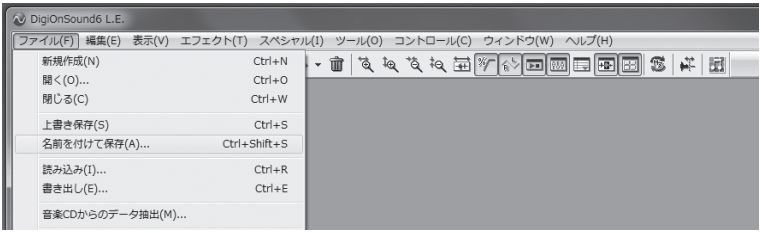
録音を終了するには：［ ■（停止）］ボタンをクリックします。

10. 録音が終了すると、トラックに波形データが表示されます。再生して、録音結果を確認してみましょう。



11. 引き続き、ノイズ除去をする場合は次のページへ進んでください。

このままファイルとして終了する場合は、「保存」または「書き出し」をします。

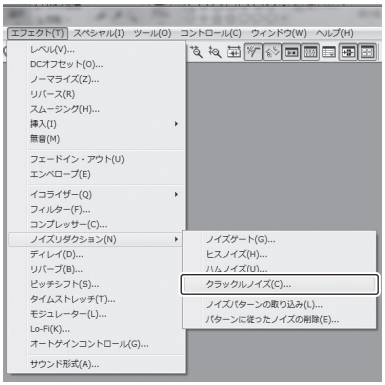


「保存」もしくは「書き出し」について詳しくは、51 ページをご覧ください。

レコードやテープのノイズを取り去る

これらのノイズは、DigiOnSound6 L.E. 内蔵のエフェクト『ノイズリダクション』を使って取り去ることができます。エフェクトランチャーから各『ノイズリダクション』画面を選択することができます。また、従来通りエフェクトメニューから各『ノイズリダクション』画面を選択できます。

1.［エフェクト］メニューから［ノイズリダクション］→除去したいノイズを選択します。



ノイズゲート
ナレーションのバックグラウンドノイズのように、定常的に発生してしまうノイズを除去するために、一定レベル以下の信号を取り除き、設定したレベル以上の信号のみを再生します。

ヒスノイズ
カセットテープなどのアナログソースを再生する時に、無音部分で発生する「シャー」といったノイズを除去します。
ただし、あまり効果を大きくし過ぎると、こもったような音質になってしまう場合がありますので、プレビュー機能を使って音質を確認しながら調整していくとよいでしょう。

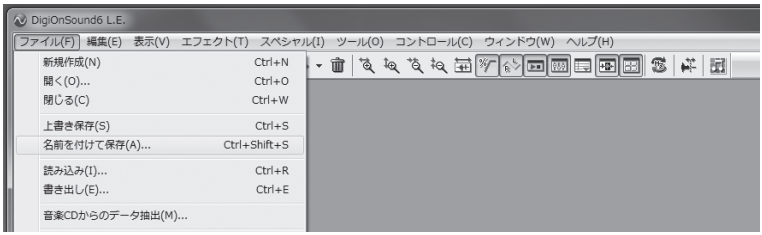
ハムノイズ
電源などにより発生する「ブーン」というような低周波ノイズを除去します。
効果を大きくし過ぎると、本来の音の高域成分を損なって音質が変化する場合がありますので注意してください。

クラックルノイズ
［クラックルノイズ］エフェクトは、レコードのプチノイズのような、突発的なノイズを除去するのに適したエフェクトです。［プレビュー］機能を使いながら、効果の大小を確かめて、エフェクトのかけ具合を調節してください。
効果を大きくすると、本来の音の成分を損なって音質が変化する場合があります。

2. 画面が開いたら、［効果］スライダーを使ってノイズを低減する度合いを設定します。

［プレビュー］機能を使用すると、効果の大小を確かめてエフェクトのかけ具合を調節することができます。
［OK］をクリックすると、エフェクト処理を実行します。

3. 作業が終了したら、「保存」または「書き出し」をします。



「保存」もしくは「書き出し」について詳しくは、51 ページをご覧ください。

レコードやテープ、IC レコーダーやマイクから録音したノイズを分析し、除去する

取り込み

「ノイズパターンの取り込み」は、サウンドファイルの無音部分 (ノイズのみが鳴っている部分) の波形からノイズ成分を解析するエフェクトで後述の「削除」とセットで使用します。

削除

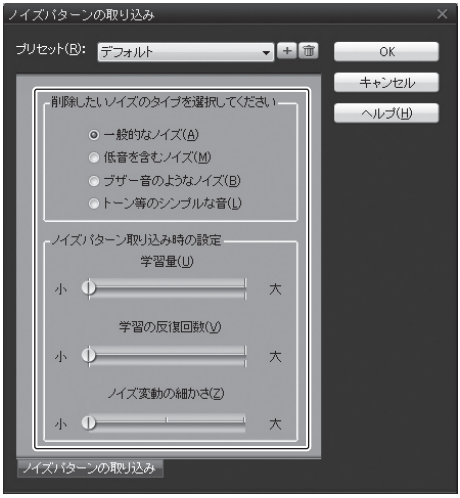
「削除」は「ノイズパターンの取り込み」からの結果を元にノイズを取り除く機能です。前述の「ノイズパターンの取り込み」とセットで使用します。
マイクを内蔵した MD や IC レコーダーなどを使って会話や会議・講演または演奏の録音を行なうと、会話や演奏などの目的の音以外にも、空調の音やパソコンやプロジェクターのファンの音などの生活雑音まで録音されてしまいます。そのようなノイズを学習・分析させて除去することで、目的のサウンドのみをクリアに再生することができます。

[ノイズリダクション―取り込み―] の手順

1. ノイズのみが入っている波形部分を範囲選択します。

2. エフェクトランチャーの
[ノイズリダクション―取り込み―] を
クリックします。

3. [ノイズパターンの取り込み] 画面から
ノイズ取り込み設定を行ないます。



4. 各項目を設定したあと、[OK] ボタンをクリックします。
ノイズパターン取り込みを実行します。

[ノイズリダクション－削除－] の手順

1. トラックウィンドウに表示している波形データに範囲選択をしている場合は、範囲選択を解除します。

2. [エフェクトランチャー] の「ノイズリダクション－削除－」をクリックします。
「パターンに従ったノイズの削除」画面が表示します。

3. ノイズ削除の各設定を行い、[OK] ボタンをクリックします。

4. ノイズパターンの削除が実行されます。

ご注意

範囲選択を解除しないまま [削除] を行なうと範囲選択された部分のみノイズ成分が削除されます。

「保存」と「書き出し」について

編集結果をセーブする「保存（上書き保存 / 名前を付けて保存）」と「書き出し」は、似ているようで実際のセーブした結果が異なります。ここでは、セーブの際の「保存」と「書き出し」の違いについて説明します。

「保存（上書き保存 / 名前を付けて保存）」について

編集したファイル（ドキュメント）を「保存」すると、編集した状態の DigiOnSound ファイルとして保存されます。つまり、保存したファイルは、DigiOnSound 形式に対応したソフトでしか扱うことができません。

編集作業が途中の場合に「保存」しておくと、いつでも同じ状況を再現することができます。また編集が完了しても、素材として「保存」しておくと、後でファイルを開き、音量バランスやエフェクトに変更を加えた“リミックス”などの作業も行えます。

- ［上書き保存］を選択すると、同じファイル名のままで編集結果が上書きされます（オリジナルデータはなくなります）。
- ［名前を付けて保存］を選択すると、新規ファイルとして保存します。オリジナルファイルに編集を加えずに保存しておきたい場合は、必ず［名前をつけて保存］を実行するか、編集ファイルを保存しないで、ファイルを閉じてください。

ご注意

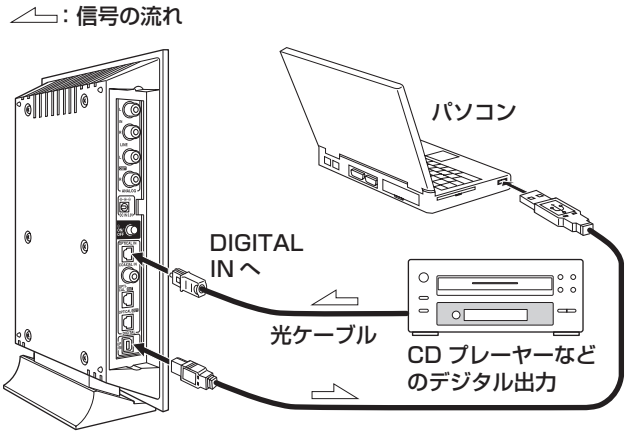
ファイル（ドキュメント）を保存せずに閉じようとすると、" 変更内容を保存するかどうか " を聞くダイアログボックスが開きます。名前を変えて保存したい場合は、ここでは［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

「書き出し」について

DigiOnSound6 L.E. で録音・編集したファイルは、「書き出し」で WAVE や WMA、MP3 などのサウンド形式に変換することで、他の多くの音楽再生プレーヤーでも再生することができるようになります。

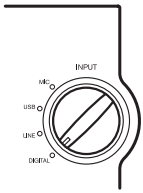
なおファイルの「書き出し」を実行しても、ファイルを「保存」していない場合には、ファイルを閉じる際に“変更内容を保存するかどうか”を聞くダイアログボックスが開かれます。

CD や MD のデジタル音声をパソコンに録音する



1. デジタル再生させる機器を図のように SE-U55SXⅡ 本体に接続します。

2. SE-U55SXⅡ 本体の入力切り替えスイッチ（INPUT）を、「DIGITAL」に切り替えます。



USB インジケーターが緑色に点灯しているかご確認ください。
USB インジケーターが点滅するときは、一度電源スイッチをオフにしてください。または、一度 USB ケーブルを抜いてください。

本機はデジタルイン・オートセレクター機能を搭載しています。接続された機器の信号を検知して入力を選択します。次の優先順位でデジタル入力が検知されます。

1. 前面パネルの DIGITAL IN
2. 後面パネルの OPTICAL IN
3. 後面パネルの COAXIAL IN

ご注意

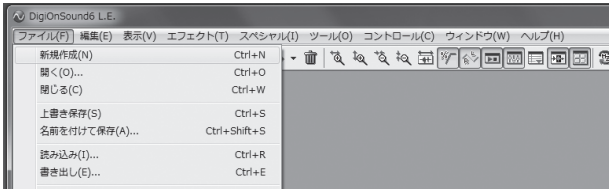
- 接続されている機器が再生してなくても、デジタル信号が出力されていることがあります。この場合、その機器より優先順位の低い端子に接続された機器の音は再生されません。このような場合は、優先順位が高い機器の電源をオフにしてください。
- 著作権保護されたデジタル入力の音声信号は、LINE OUT やヘッドフォン出力からは再生されますが、パソコンへは入力されません。アナログ入力でご利用ください。

3. DigiOnSound6 L.E. を起動します。

♪ヒント

インストール後、最初に DigiOnSound6 L.E. を起動したときには、サンプルファイルが自動的に開きます。二回目以降のソフト起動時には、前回終了時に開いていたファイル、およびウィンドウが起動時に開きます。

4. [ファイル] メニューから [新規作成] を選びます。録音用の空のファイルが開きます。



5. [ミキサーコントロール] ウィンドウを使って、録音の設定をします。

[ミキサーコントロールウィンドウ] が開いていない場合は、[表示] メニューから [ミキサーコントロール] の項目にチェックを入れてください。

ステレオ（左右が独立した音声）で録音する場合、チェックします。

モノラル（左右が同一の音声）で録音する場合、チェックします。

♪ヒント

「ステレオ」と「モノラル」は両方同時にオンすることはできません。

[ミキサーコントロール] ウィンドウの [R（レコード）] ボタンをクリックします。

[モニター] チェックボックスをチェックすると、録音レベルをモニターできます。

6.［コントローラー］画面を使って録音します。

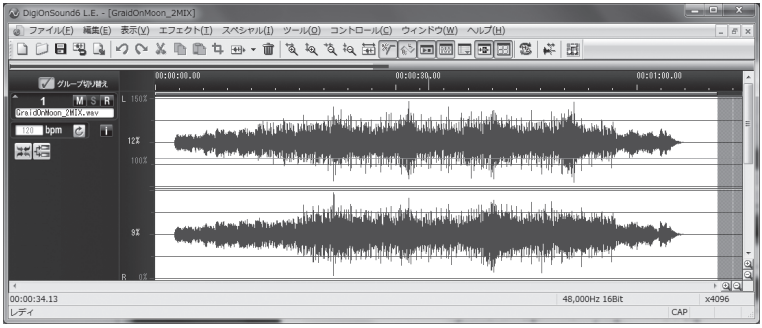
［コントローラー］ウィンドウが開いていない場合は、［表示］メニューから［コントローラー］の項目にチェックを入れてください。

1. ［ ● （録音）］ボタンをクリックすると、録音待機状態となります。
2. 機器の再生をはじめ、録音したいところで［ ⏸ （一時停止）］ボタンをクリックすると録音を開始します。

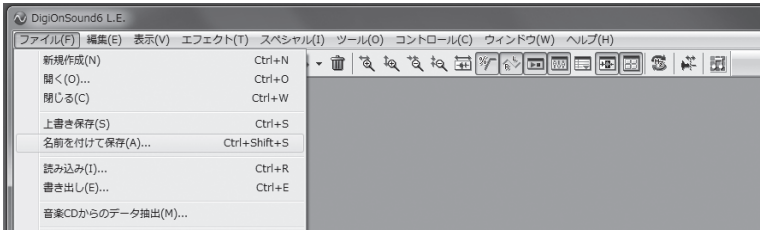
一時停止するには：録音中に［ ⏸ （一時停止）］ボタンをクリックします。ボタンが押されたポイントで録音が待機状態となり、［ ⏸ （一時停止）］ボタンをクリックすると再び録音を開始します。

録音を終了するには：［ ■ （停止）］ボタンをクリックします。

7. 録音が終了すると、トラックに波形データが表示されます。再生して、録音結果を確認してみましょう。



8.「保存」または「書き出し」をします。



「保存」もしくは「書き出し」について詳しくは、51 ページをご覧ください。

録音についてのご注意

- 録音中に入力切り替えスイッチ（INPUT）を切り替えないでください。
- 入力切り替えスイッチ（INPUT）が DIGITAL または LINE の場合、パソコンからの音声は出力されません。
- DigiOnSound 以外のサウンド編集ソフトによっては、USB による音声入出力をサポートしていない場合があります。あらかじめご利用されるサウンド編集ソフトの開発元に確認してください。
- 入力切り替えスイッチ(INPUT)が MIC 以外で、録音中に同時に再生を行わないでください。また、再生中に録音を開始しないでください。このような操作をすると「USB コントローラの帯域幅の超過」というメッセージが表示され、操作できないことがあります。
- 録音中に「USB コントローラの帯域幅の超過」というメッセージが表示されたときは、37 ページの説明に従い、量子化ビット数を「16 ビット」に設定してください。
- DigiOnSound6 L.E. ソフトウェアの「ヘルプ」をご覧ください。

＜ Windows 8/Windows 7/Windows Vista で録音を行うときは＞

※ Windows XP をお使いの方はこのページはお読みになる必要はありません。

Windows 8/Windows 7/Windows Vista では、SE-U55SXⅡ が動作するサンプリング周波数と量子化ビット数を設定する必要があります。
SE-U55SXⅡ が動作するサンプリング周波数と量子化ビット数が、DigiOnSound の保存ファイルの設定と合っていない場合、Windows 8/Windows 7/Windows Vista が自動的にサンプリング周波数と量子化ビット数の変換を行います。
しかし、サンプリング周波数や量子化ビット数の変換を行わずに録音したほうが、SE-U55SXⅡの高品質な機能をより生かして録音することができます。
また、デジタル信号を録音する場合、入力信号のサンプリング周波数や量子化ビット数と、SE-U55SXⅡが動作するサンプリング周波数や量子化ビット数を合わせる必要があります。

以下の手順にしたがって、Windows 8/Windows 7/Windows Vista の設定を行ってください。

1.「コントロールパネル」を開きます。

<Windows 8 の場合＞
スタート画面→「デスクトップ」→右クリックして「個人設定」→アドレスバーの「コントロールパネル」を選択します。

<Windows 7/Windows Vista の場合＞
「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。

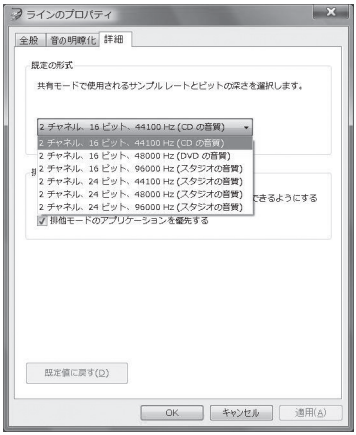
2.「ハードウェアとサウンド」の中の「オーディオデバイスの管理」をクリックします。

3.「オーディオデバイスの管理」ウインドウを開きます。

4.「録音」タブを選択します。

5.「ライン SE-U55SX Audio」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

6.「詳細」タブを選択します。



7.「既定の形式」からサンプリング周波数とビット数を選択します。

＜ライン入力のアナログ音声を録音する場合＞
DigiOnSound で保存するファイルのサンプリング周波数と量子化ビット数と同じものを選択します。同じものがない場合は「24 ビット、96000 Hz」を選択します。

＜マイク入力のアナログ音声を録音する場合＞
「16 ビット、48000 Hz」しか選択できません。そのままの設定でお使いください。

＜デジタル音声を録音する場合＞
入力するデジタル信号と同じサンプリング周波数と量子化ビット数を選択します。サンプリング周波数に同じものがない場合、録音できません。ビット数が違う場合、サンプリング周波数の合ったものの中から 24 ビットを選んでください。

ここで選んだサンプリング周波数と量子化ビット数と同じものを、DigiOnSound で保存するファイルのサンプリング周波数と量子化ビット数に設定してください。

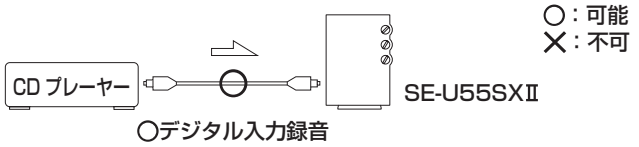
8.「OK」をクリックして終了します。

コピーガードシステムについて

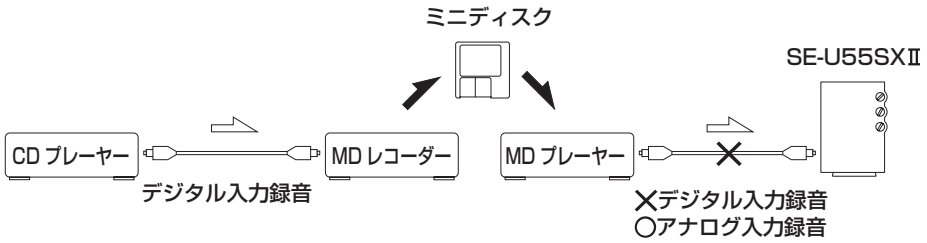
本機は SCMS（シリアルコピーマネージメントシステム）に対応しています。

- **本機のデジタル出力から SCMS 対応の MD や DAT などにデジタル録音できません。**
- **CD や MD、DAT などデジタル信号で音声データを記録しているメディアから本機のデジタル入力端子に直接デジタル信号を入力することができます。**
  ただし、一度デジタル信号からデジタル信号のまま録音された音声データを本機に入力した場合、録音はできません。

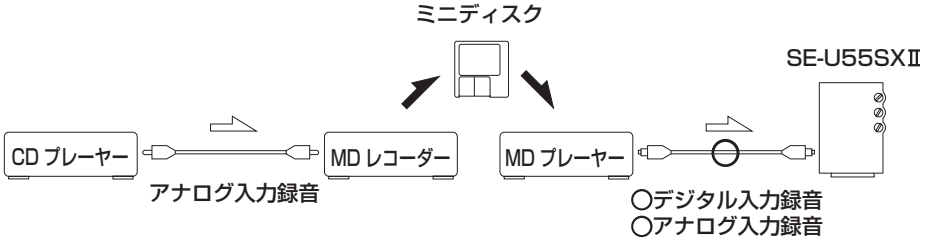
1. CD から直接デジタル信号で入力された音声データは、本機へデジタル入力することができ、録音・モニター出力も可能です。



2. CD からデジタル信号のまま録音された MD の音声データは、本機へデジタル信号のまま録音することはできません。録音する場合はアナログ信号として入力してください。



3. CD に記録されている音声データを一旦アナログ信号として録音した MD からデジタル信号として本機に入力することは可能です。



故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
機器を認識しない。	• 接続が不完全。	• 取扱説明書の「接続する」を参照して、USB ケーブルを通じて機器をパソコンに確実に接続してください。
入力切り替えスイッチ（INPUT）を切り替えた時にパソコンが不安定になる。	• 音声出力を行ったまま切り替えを行った。	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）を切り替える時は、音声出力を停止してください。
音声が出ない。	• ミュートされている。	• ボリュームコントロールを開き、ミュートボタンをクリックして再び音声を出力させます。（☞21 ページ）
	• 出力レベルが小さい。	• ボリュームコントロールを開き、ボリュームをすべて最大値に設定します。（☞21 ページ）
	• パソコン上でテレビを視聴している。	• テレビの音声には対応しておりません。
	• 他の音声出力デバイスが使用されている。	• コントロールパネルから「ハードウェアとサウンド」→「オーディオデバイスの管理」を開き、再生タブで「スピーカー SE-U55SX Audio」にチェックがついているかどうか確認してください。ついていない場合は選択し「既定値に設定」ボタンをクリックしてください。
	• 外部アンプまたはスピーカーに問題がある。	• LINE OUT 端子から外部アンプやスピーカーに確実に接続されているかどうか確認してください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。
	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）が「USB」、「LINE」または「DIGITAL」でパソコンに接続した後、入力切り替えスイッチ（INPUT）を「MIC」で使っている（USB インジケータが点滅している）。	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）を「USB」にしてください。マイクの音声を同時に使いたいときは、入力切り替えスイッチ（INPUT）を MIC のまま、電源スイッチを一度オフにして、数秒待ってからオンにしてください（USB インジケータが緑色に点灯します）。
パソコン内蔵スピーカーから音声が出ない。	• USB オーディオデバイスが優先されている。	• USB オーディオデバイスが優先されているため、内蔵スピーカーからは音声が出力されません。内蔵スピーカーから一時的に音声を出力させるためには、本機から USB ケーブルを抜いてください。内蔵スピーカーのご使用後は USB ケーブルを再度接続してください。
ヘッドホンが聞こえない。	• ヘッドホンボリュームが下がっている。	• ヘッドホンレベル調整つまみで音量を調整できます。最適な音量になるようつまみを調整してください。それでも聞こえない場合、「音声が出ない」の項を参照してください。
左右の音量バランスがかたよっている。	• バランスが中央に設定されていない。	• ボリュームコントロールを開き、バランスを調整してください。
	• 外部アンプまたはスピーカーに問題がある。	• 接続している外部アンプやスピーカーのバランスを確認してください。

症状	原因	処置
CD-ROM ドライブからの音声が出力されない。	• CD-ROM ドライブがデジタル音声出力に対応していない。	• システムが CD-ROM ドライブからのデジタル音声ストリームに対応していない場合、USB 経由では CD-ROM ドライブから出力された音声は出力されません。このような場合は、CD-ROM ドライブの音声出力（ヘッドホン出力等）をライン入力に接続し、音量を適当な値に調節してください。
ゲームの BGM が出力されない。	• BGM に CD 出力が使用されている。	• 「CD-ROM ドライブからの音声が出力されない」の項目を参照してください。
マイク音声が入力できない。	• マイクの接続が不完全。 • マイクの適合性に問題がある。 • 入力レベルが下がっている。 • 入力切り替えスイッチ（INPUT）が「MIC」になっていない。	• マイクを確実に接続してください。 • ミニプラグのマイクをご使用ください。 • プラグインパワー対応のマイクを接続してください。 • 入力レベル調整つまみ（INPUT LEVEL）で入力レベルを調整してください。 • 入力切り替えスイッチ（INPUT）を「MIC」に合わせてください。
ライン音声が入力できない。	• ライン入力の接続が不完全。 • 外部機器から音声が出力されていない。 • ライン入力ボリュームが小さい。 • レコードプレーヤーを直接接続している。 • 入力切り替えスイッチ（INPUT）の設定を間違っている。	• 外部からライン入力（ANALOG LINE IN）に確実に接続してください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。 • 外部機器から音声が出力されているかどうか確認してください。 • 入力レベル調整つまみ（INPUT LEVEL）を適切な位置に調整してください。 • レコードプレーヤーを本機に直接接続することはできません。お手持ちのレコードプレーヤーおよびカートリッジに合わせたイコライザーアンプを通して接続してください。 • 入力切り替えスイッチ（INPUT）を「LINE」に設定してください。 「DIGITAL」では、LINE OUT、PHONES には出力されますが録音できません。
デジタル出力が外部機器に入力されない。	• 外部機器のサンプリング周波数が適合していない。 • 外部機器との接続に問題がある。	• お手持ちの機器の取扱説明書を参照して、出力サンプリング周波数に対応しているかどうかお確かめください。 • 外部機器と確実に接続されているかどうかお確かめください。外部機器に問題がない場合はケーブルをお確かめください。
パソコンの音声がデジタル出力されない。	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）の設定違い。	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）を「USB」に設定してください。 「デジタル出力が外部機器に入力されない」の項を参照してください。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
録音できない。	• 他の音声入力デバイスが使用されている。	• コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」を開き「録音」の「既定のデバイス」から「USB オーディオデバイス」を選択してください。それでも録音できない時は「既定のデバイスのみを使用する」のチェックボックスにチェックを入れてください。
デジタル出力が外部機器で録音できない。	• 本機のデジタル出力は他機器で録音することができません。	• アナログ録音してください。
デジタル入力信号が録音できない。	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）の設定違い。	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）を「DIGITAL」に設定してください。
	• 入力信号がコピーガードされている。	• 本機のデジタル入力はコピーガードシステムにより保護されているため、コピー不可に設定されているデジタル信号は録音できません。（☞57 ページ）
	• 本機が対応していないサンプリング周波数の信号が入力されている。	• 本機が対応しているサンプリング周波数は、44.1/48/96kHz です。この周波数以外のデジタル信号は録音できません。
	• 外部機器との接続に問題がある。	• 外部機器と確実に接続されているかどうかお確かめください。外部機器に問題がない場合は、ケーブルをお確かめください。
	• 入力デジタル信号のサンプリング周波数と量子化ビット数が、本機が動作しているサンプリング周波数と量子化ビット数と一致していない。	• DigiOnSound と Windows の設定を、入力デジタル信号に合わせてください。（☞37、56 ページ）
マイクの音声が録音できない。	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）が「MIC」になっていない。	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）を「MIC」にしてください。
	• 入力切り替えスイッチ（INPUT）を「MIC」以外でパソコンに接続した後、入力切り替えスイッチ（INPUT）を「MIC」で使っている（USB インジケータが点滅している）。	• 電源スイッチを一度オフにして、数秒待ってからオンにしてください。（USB インジケータが緑色に点灯します）

症状	原因	処置
音が途切れる。	• 音声出力、入力中に負荷のかかる作業を行っている。	• 特に録音をされる場合には、CPU に負担のかかる作業は控えてください。
	• 音声出力、入力中に他のUSB 機器を抜き差しした。	• 音声の再生･録音中に他の USB 機器を抜き差しすると、音声が途切れることがあります。
	• CPU の処理が再生や録音に追いついていない 。	• CPU が推奨スペックを満たしていない場合は、期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPU が推奨スペックを満たしている場合でも CPU が非常に高負荷の状態である場合には音が途切れることがあります。この場合は、他のアプリケーションをすべて終了させてください 。また、録音の際のエンコード速度やフォーマットを変えて試してみてください。
	• 本機を HUB に接続している。	• 本機は 24 ビット /96kHz に対応しているため、USB バスの帯域を広く使用します。USB ケーブルは直接パソコンの USB ポートに接続してください。
雑音が多い。	• テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	• テレビなどから十分に離して置いてください。
	• マイクから雑音が入力されている。	• マイクから雑音を拾うことがありますので、マイクを使用しないときは､入力切り替えスイッチ（INPUT）を MIC 以外に設定してください。
	• 各入出力端子の接続が不完全。	• 本書 14 ページを参照して確実に接続してください 。

製品の故障により、正常に録音ができなかったことによって生じた損害（CD のレンタル料等）については保証対象になりませんので、大事な録音をされるときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

ご相談窓口・修理窓口のご案内

■ 販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は

保証の手続き上、お買い上げになった販売店様での受付けが必要となりますので、この場合は販売店様店頭への修理品お持込みをお願いいたします。

■「引取便サービス」による修理受付け

引取便サービスは弊社指定の配送業者が修理品を引取りに伺うサービスです。引取日時をご指定いただけます。

＜お電話でのお申込み＞

オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555
（受付時間：10:00 ～ 18:00　土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

＜メールでのお申込み＞

http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYO ホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記の URL にて全国の修理拠点のご案内がございます。お持込みの際には営業日を確認のうえでご訪問いただくようお願いします。

http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYO ホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■ 商品についてのご相談、リモコン等付属パーツ、その他ご不明な点は

下記のオンキヨーオーディオコールセンターへご相談ください

オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555
（受付時間：10:00 ～ 18:00　土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。保証期間は、
お買い上げ日より 1 年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。
ホームページにサポート情報（http://www.jp.onkyo.com/support/audiovisual/index.htm）がございますので、そちらもあわせてご確認ください。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品等もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。修理を依頼されるときは、次の事項をオンキヨーオーディオコールセンター、または「ご相談窓口・修理窓口のご案内」記載の他の修理窓口までお知らせください。

- ▶ **製品の型番**
- ▶ **接続している他機器**
- ▶ **できるだけ詳しい故障状況**
- ▶ **ご購入店名**
- ▶ **ご購入年月日**

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、保証書をご用意のうえ、オンキヨー修理窓口またはお買い上げの販売店へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は、販売店様店頭への修理品お持込みをお願いいたします。

■ 保証期間経過後の修理は

オンキヨー修理窓口またはお買い上げ店へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後、最大 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでオンキヨー修理窓口等へご相談ください。

2013 年 2 月現在　電話番号、受付時間などは変更になることがございます。

主な仕様

形式：	USB デジタルオーディオプロセッサー
接続方式：	USB 1.1
サンプリング周波数	
デジタル入力：	44.1kHz/48kHz/96kHz
デジタル出力：	44.1kHz/48kHz/96kHz
周波数特性：	0.3Hz ～ 44kHz（+ 0/ − 0.5dB）
全高調波歪率：	0.002%（20-kHz AES17 LPF、A-Weighted）
SN 比：	115dB（20-kHz AES17 LPF、A-Weighted）
ライン出力レベル：	2.0Vrms
ライン入力レベル：	200mVrms
マイク入力感度：	5.0mVrms
音声入力：	デジタル 3（光 2、同軸 1）、アナログ 1、マイク 1
音声出力：	デジタル 2（光 2）、アナログ 1、ヘッドホン 1
電源 *：	AC100V 50/60Hz
消費電力：	3.8W
外形寸法（幅×高さ×奥行）：	169 × 244 × 67mm
質量：	0.7kg

* 印は付属の電源アダプター（MU12-2050100-A1）使用時

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ONKYO

オンキヨー株式会社
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：
オンキヨーオーディオコールセンター
☎ 050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

Y1304-1

SN 29401514

(C) Copyright 2013 Onkyo Corporation Japan. All rights reserved.

* 2 9 4 0 1 5 1 4 *